

早良逍遥マップ記

— 歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ —

内山 敏典

はじめに

本書でいう「早良」は旧西区（現在の城南区、早良区および西区）で、早良地域（郡）の史跡名勝等を取り上げている。一部旧西区の史跡名勝等との関係で、現在の西区および中央区を含めている。

「早良」の地理的に中央に位置している重留新町バス停から約1万5千歩以内の距離で、東は中央区「ふくろうの森」、西は西区「金武の乙石」、南は早良区「脇山の谷口」、北は早良区「百道浜の福岡タワー」で、本書で取り上げている史跡名勝等は、一部を除けば、この半径1万5千歩以内のなかに歴史上存在し、また存在していたものである。この1万5千歩以内での逍遥というのは「往復の歩きが可能な距離数」と「片道の歩きと交通手段の利用」とのどちらかが可能ということであるからである。逍遥（ぶらぶら歩くこと）を通じて感じることは、歴史は動いており、歴史が歴史を創っているということである。このことは、いま現在存在している史蹟名勝等も整備されているところもあるが、ほとんどが開発などによって消滅し、碑や記憶だけの歴史になってしまっているように思われる。山を歩けば産業廃棄物の投棄、風倒木の放置および放置により植林された杉林に竹林の侵食があり、山城など遺跡の破壊へと繋がっている。とくに産業廃棄物投棄の問題は上流から下流、下流から海洋への環境汚染問題へと繋がっている。また、圃場整備や宅地開発により、河川が埋め立てられており、地下鉄工事などの公共工事により河川のルート変更がなされ当初のものとは異なってきている。

逍遥の時に眼にするのが旧集落の民家に「庚申塚」、旧集落の傍らの「道標」や「石碑」、神社の「狛犬」などである。何も考えずに歩く場合、風景などを一過性的に見るだけに過ぎないが、これらのものに関心を持つことによって歴史に関わりを持つことになる。すなわち、「庚申塚」、「道標」、「石碑」および「狛犬」などは往事の時代を表す平均的な姿である。たとえば、「庚申塚」は61日毎に来る庚申にあたる日に人間の体の中にいる虫が眠っているすきに体から抜け出し、その人の悪事を天帝（宇宙の万物を支配している神）に報告し、その内容によって人の寿命を決めると信じられていた。そこで、人は眠らずに見張りをする代わりに、庚申塚を立て信仰したということが意味する平均的な姿としての塚である。また、「狛犬」には寄進者や石工の名が彫られており、そこからその時代の寄進者の財力、その地域の人々の生活活動を調べるということが可能であるということから平均的な姿として存在している。

ところで、逍遥の際、早良の史蹟名勝等の知識を得る方法としては『早良郡志』を挙げることが出来る。この書物の基礎となっているのが、貝原益軒の『筑前国風土記』、青柳種信の『筑前国風土記拾遺』、加藤一純・鷹取周成の『筑前国風土記附録』、伊藤常足の『太宰管内志』および奥村玉蘭の『筑前名所図会』などである。これらの文献から得られた情報を地図で調べて逍遥し、これらの史蹟名勝等が何を意味するものかを考えるものである。

そうすることによって、「存在している実在の史実」あるいは「存在していない記述や伝承としての史実」という過去の出来事から未来へと繋がることを考えることが出来る。

本書は、上述のことを考えるために、上記文献に記載されている史蹟名勝等の場所を歩いて行ける地図の提供と、その史蹟名勝等の由来を簡潔に記述している。それらを通じて、著者が逍遙で感じたことを記述している。とくに、2～4章までについては、若干学術的な展開となっているので、参考文献とそのコメントを提示しているので、他の章の参考文献と表記が異なっていることに留意していただきたい。

1. 街道について

福岡藩の街道は、丸山雍成『日本近世交通史の研究』の1章2節の福岡藩領の街道として、「1795（寛政7）年の6街道と27宿駅の人馬賃銭」の研究のなかで、宿駅について次のような説明をおこなっている。すなわち、

- ①筑前六宿街道（小倉を起点に肥前を經由し長崎へ：筑前は6宿駅ある。）
- ②唐津街道（小倉を起点に福岡を經由し唐津へ：筑前は11宿駅ある。）
- ③日田街道（博多を起点に日田へ、そこから分岐道の宿駅である宰府を經由し小石原へ：6宿駅）
- ④秋月街道（小倉を起点に川原を經由し猪膝まで筑前六宿街道に沿ってあるが、秋月街道は猪膝を起点とし大熊を經由し千手へ：1宿駅）
- ⑤篠栗街道（博多を起点に金出を經由し飯塚へ：1宿駅）
- ⑥三瀬街道（福岡を起点に三瀬へ：2宿駅）

があり、6街道の宿駅は計27宿駅であるとのことである。これらの宿駅のうち、筑前六宿街道の山家宿駅は1611（慶長11）年に開かれたといわれ、六宿すべてが開かれるのは山家宿駅が開かれてから16,7年経ってからのことである。参勤交代が一般的になり、藩内の交易が盛んになるにつれてすることなどによって宿駅が開設されていくことになる。しかしながら、一般的に言われている筑前の宿駅は21宿である。

ところで、旧早良郡には、福岡藩6街道のうち唐津街道および三瀬街道があり、宿駅は前者が姪浜および後者が金武と飯場（当時怡土郡）それぞれある。これらの街道の他に、早良郡には旧早良街道という旧道がある。さらに、時代をさかのぼれば太閤道もある。ここでは早良郡内の旧早良街道、旧三瀬街道および太閤道のルートを示すことにする。唐津街道については川島悦子氏の著書『唐津街道』でそのルートが示されているので割愛する。ここで取り上げる2つの街道と太閤道は、明治時代の測量図、文献に記述されている地名および伝承されていることを参考にして作成していることに留意していただきたい。

丸山雍成『日本近世交通史の研究』吉川弘文館,1989年2月.48～51頁.

近藤典二『筑前の街道』西日本新聞社,1985年4月.55～59頁,62～71頁.

(1) 旧早良街道（板屋道）

旧早良街道は西新エルモール（旧西新岩田屋）の南にある旧唐津街道（西新旧通り）と西新歓楽街の入口とが交差する地点の南に向かう道の左手に「菊池道」という道標がある。そこを起点に、曙2丁目信号→ツルカメ薬局→太閤道と交差する逢坂→西南分校前信号→干隈中央公園の右側→りんどう保育園（川波病院裏）→櫛田神社→縁切地蔵→水道道→梅野コンクリート工業→重留新町信号→サニー駐車場の横→福岡市立入部保育所→松ヶ根の水→福岡市水道局埋設管の地の前→仙道橋→馬頭観音（または福岡市水道局埋設管の地の前→大門）→谷口バス停→板屋→坂本峠→佐賀へというルートである。

このルートは江戸時代および明治時代の産業にとって重要なルートであったと考えられる。また、このルートは鹿原炭鉱と鳥飼炭鉱の間を通り、七隈原、干隈遺跡群、梅林古墳、櫛田神社、縁切地蔵、村下古墳、林遠里と勸農社、正覚寺跡、茶臼城址、拝塚古墳、菟道岳城址、松ヶ根の水、荒平城址、主基斎田跡および栄西茶碑などの史跡名勝があり、旧早良街道が江戸時代および明治時代からということであっても、かなり以前からこの街道周辺で人々の活動がなされていたものと思われる。

地図では起点から2つのルートに分けているが、これは伝承に基づくものである。この2つのルートは数100メートルで一つになるが、そこまでは並行に続いて2つの道の距離が家一軒分である。

飯倉校区歴史探訪実行委員会『飯倉・唐木・干隈 見歩記』飯倉校区歴史探訪実行委員会,1999年3月.49～53頁.

(2) 旧三瀬街道

旧三瀬街道の起点は千眼寺の南へ下った旧唐津街道との交差する場所（もう一つの説は、古老の話として、旧唐津街道を東へ50メートル程の大西から紅葉八幡宮の方へという場所）である。千眼寺の南の場所を起点に、弥生2丁目→弥生2丁目バス停→舟底橋→原四ツ角交差点→次郎丸交差点→現在も残る旧道→市営次郎丸団地と集会所前→田の交差点の少し前からの旧道→羽根戸道バス停から右側の旧道→都地川原公園→松風橋→金武（金武宿）→金武から西山へは旧道→西山→山越え→飯場（飯場宿）→三瀬→佐賀へのルートである。このルートには、「藤崎遺跡」、「原遺跡」、「有田遺跡群」および「次郎丸高石遺跡」などがあり、とくに金武には「吉武高木遺跡」、「夫婦塚古墳」、「浦江装飾古墳」（2002（平成14）年9月21日の説明会によれば、石室には朱色での装飾がなされており、1400年前の須恵器や工師器、刀や鎌（やじり）の武器や馬具、耳環（じかん）などが出土）および「城田（じょうた）古墳」（2003（平成15）年8月2日の説明会によれば、縄文から弥生時代、さらに古墳時代から平安時代の集落や墳墓などで、とくに中国から輸入された船載鏡（はくさいきょう）で原鏡は3世紀後半期の铸造で、それを型にとり铸造した獣帯鏡（じゅうたいきょう）ほか、多数のものが出土品されているとのことである。）など多くの遺跡がある。このルートは古代からの生活活動がなされていたものと思われる。また、このルートには2つの宿駅があり、とくに明治時代には佐賀や西山からの物資の運ぶときに金武が中継場所としての役割りを果たしていたものとおもわれる。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.458～459頁. 459頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.220頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録

中巻』文献出版,1977年12月.438頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.327頁.

金尾宗平『風土と生活 福岡県地誌』刀江書院,1934年9月.272～275頁.

(3) 太閤道

早良郡における太閤道の起点は樋井川を渡った安藤外科病院の向かい側にあるビル(別府1-4-13のビルで、ここには以前リポリパンと喫茶トーションなどが営業していた)付近を起点に、元添田不動産→別府1丁目19-48から202号線へ→別府交番の裏→茶山線を横切り中村学園大学の東側を南下→別府5丁目6-19から右折→あさひ幼稚園→城南中学校→末永文化センター横の公園(この付近を逢坂)で旧早良街道と交差→美花園→国道263号線の荒江逢坂の信号→原農協バス停(202号線)→原四ツ角交差点→小田部橋→西福岡中学校東→小田部西→福重橋→JA 壱岐農協→西区役所→車両基地→下山門→生の松原→今宿→…→名護屋へのルートである。このルート以外にも原四ツ角交差点から今宿まではいくつかのルートがあるとされている。原四ツ角交差点から都築病院横の道を通るルート、原四ツ角交差点から有田、日向峠を通るルート、原四ツ角交差点から福重、拾六町を通るルートなどである。本書のルートには、忘帰台、有田遺跡群、伊佐治八郎、松浦殿塚、筑紫殿塚、五塔山および壱岐真根子などの史蹟名勝や人物を見ることができる。松浦殿塚および筑紫殿塚は都築病院横の道を通るルートに挙げることができる。やはり、上記2つの街道と同様、太閤道も古代からの生活活動がなされていたものと思われる。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.458～459頁. 456頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.266頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録中巻』文献出版,1977年12月.447頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.326頁.

飯倉校区歴史探訪実行委員会『飯倉・唐木・干隈 見歩記』飯倉校区歴史探訪実行委員会,1999年3月.45頁.

牛嶋英俊「太閤道伝説を歩く(九)福岡市の太閤道」『西日本文化(CSN)』西日本文化協会,2001年12月.9～15頁.

2. わが国の経済発展の基礎となった明治農業について

経済発展の基礎となる要因としては、農業において技術進歩が働き、生産性を高めることである。セオドア、シュルツ(T.Schultz)は、農業生産性を高めるには農業技術の習得と学校教育水準に依存しているということで、日本とインドの事例分析をおこなっている。わが国についてのこのような分析研究は、東畑精一、嵐嘉一および澤田収二郎といった人々のものがある。

わが国においては、幕末に寺小屋方式によりある程度の教育水準があったということである。明治初期には進んだ技術が西日本に発生し、それが明治中期以降東日本に伝播したことは多くの人によって指摘されている。たとえば、牛馬耕は明治以前には東日本には存在しなかった。それが西日本から最初、無床犁の抱持立犁が、ついで短床犁が普及し、それが大きな刺激となって、東日本に多かった湿田を乾田化する事業が進められる。いわゆる、「乾田馬耕」の伝播であって、その源泉として林遠里（1831～1906年）の率いる勸農社の多数の教師（社員）や、伊佐治八郎（1837～1902年）などの労農、さらに大きな指導的役割を果たした横井時敬（1860～1927年）であった。乾田馬耕に伴い、正条植、短冊苗代および塩水選などの技術が導入されていく。

また、多くの新しい技術の創始者は多くが西日本に現れている。優良品種のうち、穂数型品種「神力」は兵庫県の丸尾重次郎（1815～89年）の選抜による。簡易排水の最大の功績者は熊本県の富田甚平（1848～1927年）である。水田の中耕除草器の考案は鳥取県の中井太一郎（1830～1913年）であり、回転脱穀器は山口県の福永章一（？）であった。動力による排水は東日本が西日本より早い、灌漑は佐賀県で発展し、動力耕耘機は岡山県で始まっている。

これらのことを、別の観点から年代の期間別に整理すると、

1887～93年頃（明治20～26年頃）：革新がまず西日本で普及して、反収を高めた。東日本ではまだ停滞期で反収は低かった。

1903～07年頃（明治36～40年頃）：それらの技術が東日本に適した「亀ノ尾」（山形県の阿部亀治（1868～1928年）の品種と土地改良の進行とがあいまって収量を高めていくことになる。すなわち、明治後期に総合的な技術進歩が盛んになされた。排水事業が進行して乾田化が広い地域にわたって行われ、短床犁が普及し、「神力」、「亀ノ尾」などの優良品種が導入され、大豆粕時代、ついで化学肥料の登場と続くのは明治後期から大正にかけての頃である。

1931～35年頃（昭和6～10年頃）：大正末期は佐賀農業（電気ポンプの導入）が発展するが、この期間の西日本は停滞している。東日本では、西日本に比べ発展しているが、品種として「愛国」、「銀坊主」、「陸羽132号」が現れ、肥料としては過磷酸石灰について硫酸が現れ、品種と肥料の結合で収量を高めている。

要するに、これらの技術は米の収穫量を高めるため、深耕とそれにとまなう要因（品種

改良、薬剤、肥料および教育等）の発展に寄与した。

3. 早良逍遙マップの時代区分

逍遙マップは、神社仏閣を除けば、とくに弥生時代、古墳時代、北条執権時代、室町幕府時代（含：戦国時代）、江戸幕府時代、明治時代、大正時代および昭和時代の史跡等である。マップに示しているように、早良に多くの史跡等が存在（他の地域においても同様かもしれない）しているのは、早良地域に、太古の昔より人々の活動が盛んになされていたからであろう。とくに、中世博多との関係で、元寇以後の北条執権時代からの歴史的な痕跡である鎮西探題、その後の九州探題は現在の愛宕山のケーブルカー跡、名柄川河口の丸隈山の出城址、姪浜小学校裏の万正寺の裏山（万正寺山）に探題最後の城主（渋川堯顕）の墓である探題墓がある。また、現在の祖原公園には竹崎李長が戦った碑がある。さらに、松浦党と関係がある志々岐神社がある。戦国時代には荒平城関係の城址とそれにゆかりの史跡が多くある。江戸時代には白水養禎（黒田藩の財政改革）、加藤司書（金武、入部地区に分領）、貝原益軒（篤信）の墓、青柳種信の墓、亀井南冥・昭陽碑と南冥生誕地がある。明治時代には林遠里および伊佐治八郎の農業指導者がいた。明治・大正・昭和の時代にかけては、基幹産業のエネルギー源としての石炭産業（西新炭鉱、鹿原炭鉱、鳥飼炭鉱および姪浜炭鉱）があった。

4. 早良逍遙マップの体系化

荒平城武士のその後は、松尾大善の農業指導、伊佐治八郎の農業指導、伊佐家および中牟田家の企業活動、中西（現高取 1 丁目商店街）の伊佐家の他に、松田および西原という燃料、醤油および旅館などの商売をおこなっている。また、早良には荒平関連の寺（妙福寺（重留）、西慶寺（有田）、教善寺（小田部）、徳常寺（七隈）および西念寺（田村））が多い。早良の江戸後期および明治の神社仏閣は人々の教育に寄与していると思われる。

伊佐治八郎は、林遠里とともに、筑前農法（西南農法）を普及させ、わが国の経済発展に貢献している。伊佐治八郎は山形県の本間家を通じて農業指導に行き、安部亀治らの指導をおこなったとされている。その阿部亀治は「亀ノ尾」の品種を見つけ、「神力」および「愛国」とともに 3 大品種といわれ、これらは収量を大きく増やした。

早良を中心として発達した西日本の農業技術は、台湾経済発展に寄与している。すなわち、参考文献の[37]台湾省政府糧食所『台湾百年糧政資料纂編』中華民國 86 年 6 月.には、蓬莱米の父である磯博士が優良品種を日本から導入し、経済発展の基礎を築いたとされている。蓬莱米は自然災害とくに風に強く（短竿）多収量の品種であった。このように、早良の農業技術は、ある意味において、開発経済の国々に貢献していることになる。

【2～4 章の参考文献及び資料：若干のコメント】

[1]福岡県早良郡役所編『早良郡志』名著出版、昭和 48 年 2 月。

- [2] 貝原益軒・伊藤尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版、昭和 18 年 3 月。
- [3] 青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 上・中・下巻』文献出版、平成 5 年 6 月。
- [4] 加藤一純・鷹取周成共編、川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版、昭和 52 年 12 月。
- [5] 伊藤常足編録『太宰管内志 上巻』日本歴史地理学会、明治 41 年 9 月。
- [6] 司書会『復刻 加藤司書傳』司書会、昭和 9 年 1 月。
- [7] 平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1999 年 7 月。
- [8] 西区地域振興事業推進委員会編者・福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社、1995 年 10 月。
旧三瀬街道金武宿、金武のヤマモモ、夫婦塚古墳、野方及び吉武遺跡等
- [9] 廣崎篤夫著『福岡県の城』海鳥社、1999 年 7 月。
荒平城、茶臼城、月城、曲瀨城、本城、九州探題城
- [10] 吉永正春著『筑前戦国史』葦書房、1997 年 6 月。
池田城は大日堂の西南 3 町の所にある。小田部氏の菩提寺は脇山村の万徳寺にある。
- [11] 近藤典二著『筑前の街道』西日本新聞社、1985 年 4 月。
三瀬街道
- [12] 柳猛直著『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社、1995 年 11 月。など 5 冊。
- [13] 大西伍一著『改定増補版 日本老農伝』農山魚村文化協会、昭和 60 年 12 月。
阿部亀治（酒田）は佐藤清三郎から耕地の乾田化と稲の耐寒品種の育成を学ぶ。伊佐治八郎により乾田化と馬耕が必要であると知り実行する。耐寒性の“亀の尾”を発見する。林遠里、伊佐治八郎など。
- [14] 日本農業発達史調査会編『日本農業発達史 別巻下』中央公論社、昭和 53 年 12 月。
筑前農業について
- [15] 西日本文化協会編纂『福岡県史 近代史資料編 林遠里・勸農社』福岡県、平成 4 年 3 月。
- [16] 奥村玉蘭著、春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、昭和 60 年 12 月。
- [17] 日本農業発達史調査会編『日本農業発達史 1 一明治以降における一』中央公論社、昭和 53 年 9 月。
磯永吉技師、蓬莱米について、育種の発展について、神力、愛国及び亀の尾の 3 大品種など。
- [18] 菅洋『稲 一品種改良の系譜』法政大学出版局、1998 年 5 月。
- [19] 小林茂・磯望・佐伯弘次・高倉洋彰編『福岡平野の古環境と遺跡立地 一環境としての遺跡との共存のために一』九州大学出版会、1998 年 3 月。
地層と遺跡について。
- [20] 坂田大著『改訂版 福岡市の町名』平成 2 年 7 月。
早良郡の町名改変との関連

- [21] 西日本文化協会編纂『福岡県史 近代史資料編 福岡県地理全誌 (六)』福岡県、平成 7 年 3 月
- [22] 荒井周夫編纂『福岡縣碑誌 筑前之部』大道學館出版部、昭和 4 年 3 月.
- [23] 内務省地理局編纂物刊行会『明治前期 全国村名小字調査書第四卷』ゆまに書房、昭和 61 年 10 月.
- [24] 幡掛正木監修・伊東壽編纂『福岡縣神社庁誌』福岡縣神社庁、昭和 4 年 5 月.
主基齊田諸行事奉仕について
- [25] 西島弘編著『姪の浜を中心とした郷土史誌』野村六郎.
丸隈山出城、志々岐神社など
- [26] 福岡県編『史蹟名勝天然記念物調査報告書 第九輯』福岡県、昭和 9 年 3 月.
西油山天福寺址
- [27] 石津司著『安楽平城物語 その 8』1998 年 6 月.
重留正覚寺跡
- [28] 石津司著『安楽平城物語 その 6』1990 年 4 月.
茶臼城、武家屋敷、天福寺址、つぶて石
- [29] 氏田宗貞著『油山の歴史と伝説』サン出版、1991 年 4 月.

5. 史蹟名勝等の若干の説明

本章では、とくに旧早良郡などの史蹟名勝等について若干の説明をおこなう。すなわち、(1) 史蹟等について、(2) 寺院について、(3) 神社について、(4) 古墳について、(5) 人物について、(6) 城址についておよび (7) 炭鉱についてそれぞれ説明し、それらが記述されている文献を可能な限り掲載している。

(1) 史蹟について

元寇防塁跡（西区小戸、早良区百道および早良区西新など）

福岡市教育委員会の説明によれば、鎌倉時代の1274（文永11）年11月に蒙古（元）の国王フビライが日本侵攻を企て博多に来襲した。この戦いで博多の「まち」は大きな被害を受けたとのことであり、これを「文永の役」といっている。「文永の役」後の1276（建治2）年に鎌倉幕府は九州諸国の御家人に命じて、博多湾岸約20キロメートルにわたり石築地を築かせている。この石築地は元という敵を海岸で防ごうというもので、元寇防塁といっている。この防塁は1281（弘安4）年の「弘安の役」のとき、重要な防衛の役割を果たしたとのことである。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.444～446頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.407頁.

亀原山の元寇亀原戦跡の碑（早良区昭代：祖原公園内）

鎌倉時代における蒙古襲来の際の戦跡碑が祖原山にある。1281年の弘安の役を描いた「蒙古襲来絵詞（もうこしゅうらいえことば）」の中に「亀原」、「鳥飼」、「別府」および「塩屋の松」という地名が書かれているとのことであるが、この「塩屋の松」は亀原山での戦いのほか、現在の樋井川に架かっている塩屋橋（城南区鳥飼4丁目）付近で、この辺りは当時湿地であり、足をとられた騎馬民族である蒙古軍と肥後国の御家人であった竹崎李長（たけさき すけなが）が戦ったと考えられているところである。

ところで、筑前、壱岐および対馬などを最初に侵攻したのは、1274（文永11）年の「文永の役」をさかのぼること、255年前の1019（寛仁3）年3月末に刀伊（とい）であった。刀伊は現在の大陸の沿海地方・中国黒竜江省周辺に住んでいた女真族（じょしんぞく）であった。このとき地方の豪族であった大宰権師や藤原隆家らによって撃退されたとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編614頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.172頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987年11月.151頁.

頭山満碑（早良区西新）

頭山満を参照のこと。

大西（早良区高取）

大西は旧唐津街道の西新町（現高取 1 丁目）に位置し、藤崎方面には旧三瀬街道の行き道もある。大西には伊佐家、高山家、松田家および西原家などの旧家があった。とくに伊佐一族は安楽平家臣の末裔で質屋、油屋、米屋、肥料屋および醤油屋などの商いをおこなっていた。昭和初期の大西は近郊から農産物を持ち込んで商いをおこない、帰りには燃料および塩などを購入していたとのことである。その名残が現在リヤカー部隊といわれて商いをしている人たちである。

高取焼[東皿山]（早良区西新）

1708（宝永 5）年春より、黒田藩の陶器所として陶工高取と五十嵐の二人を移して製造していたとのことである。当時の陶器所は現在の防塁早良郵便局の信号から南へ 200 メートルの所の東側にあった。昭和 30 年代までその名残があり、福岡城からの抜け道の穴が掘られているとの噂があった。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.174 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.408 頁.

高取焼[西皿山]（早良区高取）

1718（享保 3）年に小石原村の陶工数家を移して製造している。ここでは民用の陶器を製造していたとのことである。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.174 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.408 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.119 頁.

一里塚（早良区藤崎）

江戸時代、福岡城を起点として、西の前原道、東の箱崎道、南の太宰府道に「一里塚」

が作られたとのこと。奥村玉蘭著『筑前名所図会』に一里塚が取り上げられているとのことである。藤崎は唐津方面（唐津街道）からの福岡への入り口であり、現在の早良口交差点の近くにこの碑がある。

早良区総務部市民相談室編集『早良散策』早良区総務部市民相談室発行,1991年3月.28頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.115頁,119頁,304頁.

飛石の址（早良区早良口）

藤崎金屑川には、江戸時代架橋することを禁じられていたので、数十個の切石をならべその上を往来していた址である。

福岡県早良郡役所『早良群志』名著出版,1973年2月.後編 616頁.

管公腰掛の石（早良区室見）、松ヶ根水（早良区東入部）、舟石（早良区小笠木）および笠掛天神森（早良区小笠木）

少童神社を参照のこと。

松浦殿塚（早良区小田部）

肥前国松浦郡平戸出身の人の塚とのことであった。後裔松浦隼人佐鎮隆の時、小田部城主水上某を討ち、小田部の地を居城とした。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 124～125頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.260頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.457頁.

筑紫殿塚（早良区小田部）

筑紫殿の由来は不明とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 125頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.260頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.457頁.

小田部氏の墓（早良区有田）

現在の有田には堀内城という小田部氏の里城があり、その周辺に小田部氏の墓があったとされている。今は早良区有田の納骨堂の敷地内にあるとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編124頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.261頁.

松尾大膳碑（早良区次郎丸）

松尾大膳については二つの説がある。一つは肥後の浪人であり、仇討ち逃れて早良に来、次郎丸に住み瓜を栽培していたが、仇敵に発見され非業の死を遂げたという説。もう一つは安楽平城主小田部氏の遺臣（前代から仕えている家来）で、落城後次郎丸に来て住みつき瓜を栽培していたが、何者かに襲われて非業の死を遂げたという説である。『早良群志』には大正時代にこの地に「白瓜」の生産額が大きいとの記述があるが、これは松尾大膳の指導が伝承されたものと言われている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編179～180頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年11月.53～54頁.

石津司『安楽平城物語 その1』1～4頁.

岩窟弁才天（西区愛宕）

愛宕山の北の麓の海辺に天然の岩窟蓋（がんくつげた）があり、そこに弁才天の石像を安置されているとのことであるが、現在は周辺の埋め立てによって海辺ではなく、公民館の傍にある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.449頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.323頁.

亀井南冥生誕の地（西区姪の浜）、亀井南冥・昭陽の碑（中央区地行）

亀井南冥・昭陽を参照のこと。

探題墓（西区姪の浜）

室町幕府が九州統制のために置いた九州探題は、応永年間の1396～1424年の間、代々渋川氏が務めており、現在の福安神社にある探題墓は渋川堯頭（しぶかわ たかあき）の墓所である。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.193～194頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.450頁.

葉室豊吉翁顕彰碑（西区愛宕山）

葉室豊吉を参照のこと。

且過だるま堂（西区姪の浜）

興徳寺を訪れた僧を宿泊させてもてなした所を且過だるま堂とっている。そこには禅宗の開祖である達磨大師が祭られているとのことである。

中隈山[砲台跡]（西区小戸）

1895（慶應元）年、尊皇攘夷の頃、福岡と小戸浜とに外寇防衛のために砲台を築いていた所。小戸公園内の山頂の西側に、幕末において外国の侵入に備えた砲台が築かれていたとのことである。現在は博多湾が一望できる展望台になっている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 522頁.

五塔山（五島山）（西区姪の浜）

北條氏の墳墓があった所で、現在は駅前商業地となっている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 523頁.

宮崎安貞の書齋（西区女原）

宮崎安貞を参照のこと。

忘帰台（城南区七隈）

福岡藩の代々の藩主が、七隈原や飯倉原などの狩場で獵をしての帰りに立ち寄って休息をとったところを忘帰台といっている。現在の碑がある付近は高台になっており、ここからの眺めが城に帰るのを忘れさせたということからこの名の由来がある。

飯倉校区歴史探訪実行委員会編『飯倉・唐木・干隈見歩記』飯倉校区歴史探訪実行委員会刊行,1999年3月.50頁.

飯倉校区歴史探訪実行委員会編『讀 飯倉・唐木・干隈見歩記』飯倉校区歴史探訪実行委員会刊行,2000年3月.11～12頁

縁切地蔵（早良区野芥）

重留の豪族であった富永修理太夫照兼の子、兼繩の妻になるために糟屋郡長者原の曾根出羽守國貞の娘を迎えようとした時、兼繩出奔したので、それを出羽守に知らせるために使者を出したが間に合わなかったとのことであった。出羽守は一族を連れて野芥に来ていて、修理太夫の使者とこの地で出会い、このことを知り落胆して、親子共に自殺したとのことであった。多量の荷は七隈原一帯に埋められたとのことである。このことを哀れみ村人が石仏を祭っているとのことである。現在では、病気および男女問題等の縁切りとして人気があるとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 167～177頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.314頁.

にごし川（早良区野芥）

西油山には三百六十坊の食用米のとき汁が流されてくるのでこの名がついている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 180頁.

野芥鬼塚[塚穴]（早良区野芥）

塚穴は豪族の墓とも、僧坊跡ともいわれている。また、その穴から出てきた人の容姿が鬼のように見えたので鬼塚ともいわれている。貝原益軒は『筑前国続風土記』の中で、「野芥村に25の石窟があり、入り口はせまく、奥は広い」と記述しているが、現在は3つの石窟が残っている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 179頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前国続風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.419～420頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前国続風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.256頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前国続風土記』文献出版,2001年6月.457～458頁.

坊城の址（城南区油山）

西油山の中腹に天福寺の址があり、これを坊城跡といっている。『筑前国続風土記』には「泪ヶ原」というところに寺僧の葬地があり、多くの経筒が発掘されているとの記述があり、この周辺からさまざまな遺物が出土されている。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前国続風土記』文献出版,2001年6月.473～474頁.

福岡県編纂「西油山 天福寺跡」『史蹟名勝天然記念物調査報告書 第九輯』福岡県,1934年3月. 149～162.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 178頁.

長者屋敷（早良区重留）

重留の地の豪族であった富永修理太夫の邸宅とのことである。
福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 232頁.

入部磨墓（早良区東入部）

この地方を治めていた菟道郷入部磨の墓で、菟道岳（うじだけ）城址への登り口付近にある。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 232頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.244頁.

袈裟磨墓（早良区東入部）

小田部式部太輔平盛高の子である袈裟磨の墓である。菟道岳（うじだけ）城址への登り口付近にある。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 232頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.244頁.

椿水路（早良区東入部から賀茂・原まで）

この水路は江戸時代のもので、現在の東入部 8 丁目の室見川から賀茂神社のある免周辺まで作られたもので、途中金屑川と合流し、原方面までの田を潤していたとのことである。当時の金屑川の水量が少ないのを解決するために水路が作られたものと考えられている。なお早良にはもう一つ大井手水路（西入部から田村方面まで）がある。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.257～258頁.

結城兵部少輔の墓（西区金武乙石）

乙石にある碑の説明によれば、結城兵部少輔は 1570 年代の天正年間ごろに阿波国から来、安楽平城主小田部紹叱の情により、早良郡金武に居住していたとのことである。生国から阿波島大明神の分霊した山神を祭り、また禅宗西山寺を建立して結城氏の菩提寺としたとのことである。

石津司『安楽平城物語 その 1』1985 年 12 月.5～9 頁.

金武ヤマモモの木（西区金武乙石）

西区金武乙石の集落から二つの溜池に沿って南西に約 1 キロメートル程山道を登りつめるとヤマモモの巨木がある。登りつめた所にはその木を眺めるためのベンチが置いてある。また、その木の周辺にも大きなヤマモモの木が数本ある。

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社,1995 年 10 月.45～46 頁.

主基齋田（早良区脇山）

1928（昭和 3）年 11 月昭和天皇即位の大礼がおこなわれるにあたり大嘗祭（だいじょうさい）の悠紀殿（ゆうきでん）および主基殿（すきでん）に神穀を献上する田の選定で、東から滋賀県（悠紀田）および西から福岡県（主基田）がそれぞれ選ばれた。主基齋田は早良郡脇山村の石津新一郎所有の 1 ヘクタールで、種籾（たねもみ）は横井時敬が開発し、西南農法の技術であった塩水選で選ばれたものであった。米 450 キログラムの収穫米は 1929（昭和 4）年 10 月 17 日に 12 個の白木の唐櫃（からびつ）に入れ、筑肥線西新駅から新造列車で京都に輸送されたとのことである。現在の早良区野田にある野田公民館の傍に「主基齋田勅使の碑」がある。

幡掛正木監修／伊東壽編纂『福岡縣神社廳誌』福岡縣神社廳,1955 年 5 月.67～69 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995 年 11 月. 103～115 頁.

主基齋田勅使道の碑（早良区脇山）

主基殿に神穀を献上するための齋田決定を伝達するために、天皇の使者が通った道の碑である。現在の野田公民館の傍にある。

栄西茶碑（早良区脇山）

栄西を参照のこと。

西光寺の梵鐘（早良区内野）

西光寺（真宗）にある梵鐘はわが国で4番目に古い国宝（1954（昭和29）年に指定）の梵鐘で、平安時代前期の839（承和6）年に製作されたものである。この梵鐘は現在の島根県（伯耆（ほうき）の国）の金石寺（廃寺）の梵鐘として製作され、その後出雲の多福寺（衰退後）から松江の金物屋に売られ、1889（明治22）年大阪へ、西光寺12世住職（深沢慧眼師）がこの中古の梵鐘を購入し、第2次世界大戦時代の供出から逃れ現在に至っているとのことである。

また、西光寺には大杉栄（1885～1923年：アナーキスト）と妻の伊藤野枝（1895～1923年：婦人運動家）、大杉の甥で6歳であった橘宗一の墓石があったとのことである。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.241頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年11月. 98～107頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.434頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編 福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995年3月. 33頁.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 128頁,229頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改訂新版』三省堂,1999年10月. 180頁,332頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 118頁,230頁,338頁.

白水養禎宅跡（早良区内野）

白水養禎を参照のこと。

多々羅瀬（早良区大字石釜）

石釜と西との境に流れる川の瀬において、荒平戦争の時武士が太刀を洗ったので太刀洗い瀬といっていたのを、後になって多々羅瀬と言われるようになったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 343頁.

五輪の塔（早良区曲淵）

曲淵小学校に五輪の塔がある。伝説には肥後の国より小國孫右衛門という者が落来、この地で死したが、後年その孫娘が尼となって来て菩提のため、五輪の塔を建て千部の経を納めたといわれている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 343～344頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年11月. 29頁.

友泉亭（城南区友泉亭）

黒田藩 6代藩主継高公が江戸時代中期の1750（寛延3）年10月から約3年の歳月をかけて完成させた別邸である。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.410頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 57頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.227頁.

日本文学碑公園（城南区南片江）

東油山の麓に日本文学公園がある。この近くの小学校の遠足の場になっていたとのことであるが、現在は管理があまりなされていないようである。この公園内は大きな岩に著名人の書が刻まれており、進藤一馬元福岡市長の書などが通りに面している。

中野正剛碑（中央区今川）

中野正剛を参照のこと。

ふくろうの森（中央区赤坂）

ふくろうの森は現在の福岡市中央区けやき通り（国体道路）の南側の丘に位置している。この付近は福岡藩の武家屋敷跡で、野村望東尼生誕地碑および加藤司書宅跡などがある。

野村望東尼生誕の地の碑（中央区赤坂）

野村望東尼を参照のこと。

加藤司書屋敷跡（中央区桜坂）

加藤司書を参照のこと。

玄洋社跡（中央区舞鶴）

頭山満は、1879（明治 12）年に箱田六輔および平岡浩太郎とともに、玄洋社を創立した。その玄洋社跡はもともと現 NTT の社宅であったが、現在は NTTDoCoMo ビルとなっている。

六波羅探題跡[六波羅蜜寺]（京都市東山区）

中世の早良郡には、鎮西探題、渋川探題および九州探題などと、その時代に応じた探題があった。わが国における探題の起こりは京都の六波羅探題である。六波羅探題は鎌倉幕府が京に置いた政務機関である。1221（承久 3）年の「承久の変」の祭に、北条泰時・時房が京へ攻め上がり六波羅で政務を執行したのが六波羅探題の始まりとのことである。その重要な職務は「西日本諸国の裁判」、「畿内の警備」および「朝廷との折衝」である。六波羅探題は六波羅蜜寺を中心に、北側に「探題北方」を、南側に「探題南方」をそれぞれ置いている。1333 年（北朝：正慶 2 年、南朝：元弘 3 年）に後醍醐天皇に味方した足利尊氏に攻められて探題は滅びたとのことである。六波羅蜜寺は大乗仏教を普及させており、その教えはより多くの人を救えるとして、その教えを大きな乗り物に例えており、出家僧の

みでなく、在家信者も救われるということである。また現在の洛東中学校の正門から入った直のところに「平氏六波羅第・鎌倉幕府六波羅探題跡」の石標があるが、洛東中学校は蜜寺から約 100 メートルの所である。

(2) 寺院について

浄満寺（中央区地行）

福岡市教育委員会の説明文には、1635（寛永 12）年に那珂郡春吉村に開基され、1654（承応 3）年に福岡大工町に移転、さらに 1671（寛文 11）年に現在地に移転したとされているとの説明がなされている。ここには亀井南冥・昭陽父子の墓所でもある。

金龍寺（中央区今川）

曹洞宗の寺で 1508（永正 5）年に原田弾正少弼弘種が怡土郡高祖村（いとぐんたかすむら）に建立したものを、1611（慶長 16）年に黒田長政の家臣高橋伊豆が荒戸山に移した。その後、黒田忠之の時代に荒戸山に東照宮を建立する計画が立てられたので、1649（慶安 2）年 9 月に現在地に移転したとのことである。寺内に貝原益軒と婦人の東軒の墓がある。

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.116～118 頁.

井上精三『博多郷土事典』葦書房,1987 年 11 月.63～64 頁.

千眼寺（早良区百道）

禅宗黄檗（おうばく）派で、開山を天佑とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 612～613 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.176～177 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.118～119 頁.

顕乗寺（早良区祖原）

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 613 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.421 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.173～174 頁.

徳常寺（城南区七隈）

徳常寺は1627（寛永4）年2月からの歴史がある。開祖の僧を宗順といい、その後、荒平城主小田部紹叱の家臣であった道某によって徳常寺として現在地に移ってきたとのことである。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.418頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.265頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編111頁,120頁.

万正寺（西区姪の浜）

1715（正徳5）年に万正寺と改められたが、この寺は渋川探題の菩提所という密接な関係があり、探題塚と隣接している。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編516頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.452頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.191～192頁.

興徳寺（西区姪の浜）

臨済宗の寺で、九州探題北条時定が1260（文応元）年に創建している。開山は大応国師で、中国からの帰途3年間住職となっているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編513～515頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.450～451頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.188～190頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12

月.324頁.

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社,1995年10月.116頁.

西念寺（早良区田村）

荒平落城後土生大和が了善と称し、寺を建立したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編175頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.438～439頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.216頁.

教善寺（早良区小田部）

伊佐家などがある子田部集落の西にあり、また太閤道の傍にある。この寺は安楽城との関係が有るとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編111頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.259頁.

西応寺（早良区有田）

開祖の僧は恵正ということである。月城（げつじょう）跡があり、安楽平城との縁が深い。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編122頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.261頁.

教徳寺（早良区四箇）

対馬国の甚助という人が宗心となり開祖したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 395頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.248頁.

梅林寺（城南区梅林）

梅林寺（ばいりんじ）は西油山三百六十坊あったとされる僧坊の一つで、約 800 年前に建立されたとされている。境内には滝がある。

晃恩寺祈念祈祷所（早良区野芥）

1789年（江戸時代中期）の水飢饉の際に、不動明龍神を祭って雨乞いをしたのが始まりとのことで、奥に滝がある。現在は寺への入口の案内板にさまざまな祈念祈祷をおこなうとの説明がなされている。

徳栄寺（早良区野芥）

徳栄寺は佐賀県の大町町（おおまちまち）で佐賀炭鉱および昭和鉱業所（福岡県宇美町）等の経営者で貴族院議員でもあった中島徳松（1951（昭和 26）年 12 月 2 日、77 歳で没）が 1934（昭和 9）年に建立したとのことである。徳栄寺の徳は徳松の「徳」、栄は徳松の妻である栄子の「栄」を合わせて徳栄寺と名づけているとのこと。早世した長男や炭鉱事故で亡くなった人々の菩提を弔うための建立とのこと。その名残か早良区野芥の妙見口 5 差路の門のタバコ屋さんには「お願い 切符は必ず停留所でお買い求めの上乗車前に車掌にお示し下さい：旅館 嬉野館：嬉野温泉」というコマーシャルがかかっている看板がある。

ところで、炭鉱経営者は時代とともに変遷していくが、佐賀炭鉱中島鉱業所は杵島炭鉱（経営者：高取伊好）に買収されている。この杵島炭鉱は佐賀県肥前町の大鶴炭鉱を経営することになる。杵島炭鉱は 1969（昭和 44）年に閉山。肥前町の大鶴炭鉱は現在「にあんちゃんの里」となっている。「シナリオ にあんちゃん」は日活で映画化されたときのものである。家族愛の醸成の映画で、とくに団塊の世代は学校を通じてこの映画を鑑賞している。また、著者である安本末子さんの還暦（2003年）に復刻版が刊行されている。

隆慶一郎「シナリオ にあんちゃん」『隆慶一郎全集 第 6 巻』新潮社,1996年4月.

安本末子『にあんちゃん』西日本新聞社,2003年6月.

『大鶴炭鉱写真』について、<http://www.saganet.ne.jp/hizen/nianchan/omoide1.htm>

『中島徳松伝 上・下』について、<http://www.en.kyushu-u.ac.jp/coal/s6nakajima.html>

天福廃寺（早良区西油山中腹）、正覚寺跡（早良区重留）

西油山中の腹にあった寺で、当時は三百六十坊あったが、今は竹林となり観音堂が残っていたとのことである。この観音堂が西油山の海神社で、正覚寺跡は現在の重留の観音堂にあったとされている。正覚寺は法華寺で小田部氏の寺で、この跡に鐘を埋めてあったが黒田長政の家臣吉田壱岐が掘り出し福岡城へ、そこから聖福寺へと移っていったとのことである。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.459頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.252頁,253～254頁.

正覚寺（城南区東油山）、海神社（城南区東油山）

油山観音正覚寺（東油山）は清賀上人（せいがしょうにん）が開山したとされている。寺宝に国指定重要文化財の木造聖観音坐像がある。境内には鎮西国師の指導跡、十六羅漢、放生池およびひばり観音などがある。毎年1月15日に小豆を混ぜた粥を供え農産物の出来具合や、風水害を占う「粥開き」がおこなわれているとのことである。この行事は、正覚寺境内の南側の石段を登った所にある海神社とともにおこなわれているとのことである。

歌手美空ひばりとの関係で、ひばり観音がつくられている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編47～48頁,51～53頁.

浄覚寺（早良区重留）

僧官山の開祖で1519（永正16）年に創立されたとされている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編228頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.252頁.

妙福寺（早良区重留）

土生了善の開祖で、日向の国から来ているとのことである。1661（万治4）年4月に寺号木仏を許されているとのことである。土生姓は安楽平城との関連が深い。また、妙福寺の庭園は金屑川の自然の流れを取り入れ、白の石が敷きつめられており、とくに月夜の庭園が素晴らしいとのことである。1978（昭和53）年から市指定文化財となっている。さらに、本堂入口には仙涯和尚直筆の「妙福寺」が掲げている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 226～228頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.420～421頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.251頁.

真正寺（早良区重留）

長沼宗道の開祖とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 228頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.421頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.252頁.

徳勝寺（早良区東入部）

角将監秀兼の開祖とのことである。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.244頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 226頁.

西教寺（早良区東入部）

初代の僧は小早川隆景の臣玄琢（俗名：飯田万三郎）であった。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 226頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.425頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月 244頁.

西音寺（早良区西入部）

元糸島郡の西堂にあつて 1295（永仁 3）年に専心という人が創立している。その後の 1586（天正 14）年高祖城主原田氏の家臣笠大炊守が住職となり、1629（寛永 6）年に圓西住職の時、現在の西入部に移転したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 226頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.440頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.246頁.

大円寺（早良区西入部）

寺内に淡嶋社がある。また、五輪の石塔があり、これを黒塔（くろとう）とっているとのことである。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.440頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.245頁.

西光寺（早良区内野）

西光寺の梵鐘を参照のこと。

万徳寺（早良区脇山）

1468（応仁 2）年に高田平左衛門信房入道道雪の開祖とのことである。また、吉永正治氏によれば、万徳寺は小田部氏の菩提寺であるとの記述があるが、それが定かであるかどうかは不明である。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 278～280 頁.

吉永正治『筑前戦国史』葦書房,1997年6月. 135 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.427 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.237 頁.

真教寺（早良区飯場）

1511（永正 8）年寺田正玄の開祖とされている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 340 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.407 頁.

(3) 神社について

壱岐神社（西区生の松原）

応神天皇（在位：207～310年）の279年のころ、筑紫を守護していた武内宿禰（たけうち すくね）を、その弟である甘味内宿禰（うましうちの すくね）が「兄が天下を取ろうとする野心をもっている」と天皇に密告した。天皇はこれ信じて武内宿禰への刺客を派遣した。武内宿禰の家臣で主人に似ている壱岐真根子（いき まねこ）は主人の身代わりとして死んだとされている。その後、武内宿禰は都にのぼり、身の潔白を明かすことができたとのことである。壱岐神社はこの壱岐真根子が祭られている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 441～442頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.325頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.200～201頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987年.10頁.

住吉神社（西区姪の浜）

住吉神社は729～749年の天平年間に創建されたといわれている。海岸近くにあったが、1416（応永 23）年に現在地に移転している。黒田忠之公が鉄の灯籠を寄進しており、福岡藩の信仰も厚かったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 509～510頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.185～186頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.447～450頁.

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社,1995年10月.113～114頁.

小戸神社（西区小戸）

小戸神社のそばに御膳立がある。これは妙見崎にあり、膳碗（ぜんわん）の形をしていたとのことであるが、現在は海中とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 512頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.324頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.186頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.450～451頁.

愛宕神社（西区愛宕）

愛宕山は鷲尾山といわれていた。72年の景行天皇のとき鷲尾権現の鎮座するこの山が開かれている。956年の村上天皇のとき社殿が改築された。第2次世界大戦前まであったケーブルカー跡である場所（愛宕神社の南方の山頂）は九州探題跡である。鎌倉時代の元寇の役後、北條幕府によって鎮西探題が置かれた。1634（寛永11）年に福岡藩二代藩主黒田忠之公が山城国より愛宕権現をこの地に移し祭った。1632（寛永9）年の「黒田騒動」のとき、山城国愛宕権現に祈願し、疑いが晴れたことにより、忠之公が愛宕権現の分霊を移し祭ったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編510～512頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.323頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.186～188頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.448～449頁.

愛宕神社監修『愛宕神社物語』企画事務所ウィル,1995年8月.4～7頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.415頁.

猿田彦神社（早良区藤崎）

1713（正徳3）年に再建されている。猿田彦神社は初庚申（はつこうしん）の日は厄除け赤い猿面を求める人でにぎわう。それは「災いが去り、幸福が訪れる」として、博多ではこの猿面を玄関の戸口に掛ける家がみられる。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編611～612頁.

早良区総務部市民相談室編集『早良散策』早良区総務部市民相談室,1991年3月.29頁.

紅葉八幡宮（早良区高取）

福岡藩三代藩主黒田光之が早良群橋本村にあった社を西新の地（現在の西新パレス、西鉄西新営業所付近）に移し紅葉八幡宮としたもので、1915（大正 4）年に現在地の高取 1 丁目の紅葉山に移転している。紅葉八幡宮は 25 年に一度遷宮祭がおこなわれるとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 610～611 頁.

早良区総務部市民相談室編集『早良散策』早良区総務部市民相談室,1991 年 3 月.29 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.406～407 頁,444 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.175～176 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.406～407 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.118 頁.

山の神（早良区高取）

山頂に導地蔵尊が祭られている。この山の麓には昭和 30 年代まで土管置き場、石切り場や防空壕跡があったが、現在は住宅街とマンションの駐車場となっている。また、近くは紅葉八幡宮や高取焼がある。

少童（わだづみ）神社（早良区室見）

1920（大正 9）年 12 月 3 日に金戸の天満神社と合併し、少童神社と称している。境内には大宰府への左遷のおり菅公が腰掛た石がある。

また、菅原道真が大宰府への一つである室見川ルートに、室見 4 丁目の「少童（わだづみ）神社」の菅公腰掛の石、東入部 2 丁目熊本の「松ヶ根水」の菅公が今宮神社に参拝する前にこの水で手を清めたとされる水、小笠木の「笠掛天神森」の菅公が休息のために立ち寄った森の木にかぶっていた笠を掛けて休んだという場所（現早良高校付近）があり、

地元の人が「宰府道（さいふみち）」とっている脇の林の中に「舟石」といわれる大きな石の舟がある。この石は菅公が大宰府に向かうときに乗ってきた舟が石に変わったとの伝承されているものである。少童神社付近は海に近く塩田があったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 118頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.406～407頁,447頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.181～182頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.453頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.326頁.

諏訪神社（早良区原）

長野県諏訪郡下諏訪町鎮座の諏訪大社下社御祭神八坂刀實神（妃神）の御分社で、御鎮座は2003（平成15）年現在で約500年前とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 119頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.262頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.456頁.

飯倉神社（早良区飯倉）

1201（建仁元）年に創立されたとのこと、飯倉という名は「屯倉（みやげ）：収穫される穀物を入れた倉で、全国40数ヶ所の一つ」が置かれていたことに由来するとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 119頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.263頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中

卷』文献出版,1977年12月.456頁.

宝満神社（早良区小田部）

1872（明治5）年11月3日に村社となっている。1880（明治13）年に室見神社を合祀（ごうし）したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編118頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.455頁.

宝満神社（早良区有田）

境内には松尾孫三郎の碑がある。松尾は享保の頃有田で庄屋をし、村民のために労をなした人物である。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編119頁,126～127頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.261頁.

飯盛神社（西区飯盛）、文殊堂（西区飯盛）

859（諦観元）年に清和天皇は勅使和気清友を使わし飯盛山上・中・下神宮の再建を命ぜられたとのこと、これが飯盛神社の創建となっている。また、飯盛神社は鎌倉時代の狩り装束に身を包んだ射手が馬上から弓矢で的を射抜くという流鏑馬（やぶさめ）奉納の行事が有名である。流鏑馬は五穀豊穰（ごこくほうじょう）を願うもので、1838（天保9）年から続く伝統行事で、市無形文化財に指定されている。

飯盛神社から左手の方にある小道を行くと文殊堂がある。その脇には「知恵」の水汲み場がある。ここに祭られている本尊は日本三大文殊堂として信仰がある。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編340頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.458～459頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.443頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.458～459

頁. 627 頁.

警固神社（早良区四箇）

いつごろ鎮座されたかは不明とのことであるが、一説によれば、(慶徳 3) 年 9 月に那珂郡警固村より分霊し、祭られたとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 392 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.449 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.247 頁.

老松宮（早良区四箇）

1163（長寛元）年 9 月、太宰府より四箇に地に分霊し祭ったとのことである。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月 459 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.426 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.439 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 393 頁.

橋本神社（西区橋本）

1482（文明 14）年に柴田蔵人佐繁信（しばた くらんどのすけしげのぶ）父子によって建立されたとのことである。蔵人の祖先は陸奥国（現宮城県）柴田郡の豪族かあるいは越後国（現新潟県）の柴田の人で、何らかの理由で一族郎党を引き連れて橋本来、郷里の八幡宮の分霊をこの地に迎え社殿を建立したとのことである。当時、この八幡宮の北側に黒田藩主の別荘茶屋があり、三代藩主光之公は橋本の人を母として生まれ、この地で幼少を過ごしたとのことである。現在はこの別荘茶屋跡といわれるところに「光之公誕生ヨナ埋設の地」の碑がある。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月. 445～446頁.

賀茂神社（早良区賀茂）

京都賀茂神社の分霊社として創設されたもので、平安時代以前の建立であるとのことである。昔から身体に白い斑点の出る鯰の平癒祈願の神様として知られている。鯰研究をされている現在の天皇陛下が皇太子のころ訪れられたとのことである。祭事には城南区七隈の菊池神社より宮司を迎えているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 174頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月. 455～456頁.

菊池神社（城南区七隈）、菊池神社（中央区六本松）

菊池寂阿は1333（元弘3）年後醍醐天皇から北條英時を討つために、肥後の菊池から博多に来、元弘3年3月23日に探題の館を攻めたが、大友小弐等の変心により、戦死したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 108～118頁.

梅林八幡社（早良区梅林）

肥前国神崎郡干栗（ちくり）八幡宮の分霊をこの地に移したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 172～174頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月. 418～419頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.254～255頁.

櫛田神社（早良区野芥）

早良六郷の郷社であり、1012（長和元）年9月の建立である。旧早良街道（板屋道）の野芥にあり、奥村玉蘭の図絵のも描かれている。

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.314頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編172頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.419頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.255頁.

海（わだつみ）神社（早良区西油山）

貝原益軒の『筑前國續風土記』に油山の七分高き所に龍樹権現（りゅうじゅごんげん）の社の跡があつてその下に大岩があり、さらにその下に「つぶて石」があるとの記述がある。また、龍樹権現の社の下に天福寺があつたとの記述もある。その龍樹権現は現在海神社に移されているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編172頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.419頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.473～474頁.

宝満神社（早良区重留）

709（和銅2）年8月に富永修理太夫照房が建立したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編225頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.251頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中

卷』文献出版,1977年12月.420頁.

老松神社（早良区東入部）

菅原道真が太宰府へ向かう途中、入部で今宮神社に立ち寄った後、近くで松を植えて「この松が一夜のうちに生長し古木となることがあれば、後年自分の無実がはれるであろう」と占ったとのことであったが、一夜にしてその松がおい茂ったとのことである。ある時、病気になった今宮神社の神官がこの松に祈願したら全快したので、木の下に祠を建て道真を祭ったとのことである。これが老松神社の名のいわれとされているとのことである。

また、921（延喜21）年に菟道嶽の中腹にあったものが、991（正暦2）年に現在の東入部中道の地に遷座したとのことである。1579（天正7）年の小田部・龍造寺の戦争のとき焼失したとのことである。1592～1595年の文禄年中に樋口平右衛門兄弟3人が再建したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編224～225頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.423～425頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.243頁.

早良区総務部市民相談室編集『早良散策』早良区総務部市民相談室発行,1991年3月.36頁.

志々岐神社（早良区内野）、志々木[志式]社（早良区小戸）

内野にある志々木神社は930（天慶3）年に肥前国の松浦より迎えた松浦姫などが祭られているとのことである。また、志々木（志式）社は姪浜の丸隈山北面にもあり、さらに小田部には松浦殿の墓があったとされており、松浦党の影響が大きかったことを意味している。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.241頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中

卷』文献出版,1977年12月.434頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編3344頁.

西島弘編著『姪の浜を中心とした郷土史誌』野村六郎発行,1992年6月. 130頁.

横山神社（早良区脇山大門）

1872（明治5）年11月3日に村社に定められたとのことで、大山祇神社はこの神社の末社とのことである

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編275頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.236頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月. 426頁.

宇賀神社（小笠木舟引）

小笠木舟引にある宰府道の傍にあり、舟石の近くでもある。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編277頁.

大山祇神社（早良区小笠木）

1872（明治5）年11月3日に村社に定められたとのことで、横山神社の末社とのことである

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編275～277頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.234頁.

熊野神社[三社宮:中山]（早良区大字西）

1260（文応元）年の秋に脇山村より分霊して祭ったとの事である。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編334～335頁.

池田大日堂（早良区脇山）

大日堂に奉納されているものは室町時代の仏像で、全身が金色で総高 1.305 メートル、像高 0.808 メートルの寄せ木造りとのことである。1992（平成 4）年に福岡市の有形文化財（彫刻）に指定されている。仏像の頭から体部を一材で造る大胆・素朴で古風な構造と技法は、この作者が地元の仏師であることを伺わせるとのことである。堂の前に 1999 年 3 月によって設置された板にこのような説明がなされている。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.237～238 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.427 頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編 福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月. 28 頁.

(4) 古墳について

野方遺跡（西区野方）

野方遺跡は、「環濠集落」の典型的なもので、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて、野方地区のリーダー層が居住していたムラではないかと考えられている遺跡とのことである。出土品はさまざまな土器、石庖丁・石錘（せきすい）等の石器、鉄鎌・鋤先などの鉄器、箱式石棺墓に副葬されていた後漢鏡片（中国の鏡）、鉄製素環頭刀子（てっせいそかんとうとうす）や勾玉（まがたま）などであり、野方遺跡館に展示されている。

福岡市西区役所『早良王墓から元寇まで 西区は歴史の博物館展』1996年10月.2頁.

小田部西公園（早良区小田部）

松浦殿および筑紫殿の説明版があるが、この公園の近辺にあったということで、公園の現在地ではないとのことである。

小田部南公園（早良区小田部）、有田西公園（早良区有田）

有田遺跡群は、現在の早良区有田、小田部および南庄地区にかけて広がる旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡とのことである。すなわち、弥生時代前期の環濠集落、古墳時代の「むら」の跡、奈良時代の役所と推定される堀立柱建物群などであり、とくに小田部地区の方は戦国時代小田部城の堀の遺構などがあるとのことである。

福岡市教育委員会「有田・小田部 第21集」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第426集』福岡市教育委員会,1995年3月.

吉武高木遺跡（西区大字吉武）

吉武高木遺跡は、福岡市教育委員会説明によれば、弥生時代前期末～中期前半のもので、1200基を超える甕棺墓・木棺墓が10カ所以上に分かれ墓地を形成していたとのことである。もちろん、豊富な副葬品が見られたとのことである。それに注目されているのは大型堀立柱建物であるとのことである。この建物は王墓の遙拝所的機能をもつ祖霊祭祀（それいさいし）のための高殿とも、首長の館ともいわれているとのことである。

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社,1995年10月.31～32頁.

干隈中央公園（城南区干隈）

この公園には熊添池を中心に干隈池遺跡、干隈古墳群および若宮池遺跡などがあり、とくに古墳時代における人々の活動がこの周辺で盛んであったことがうかがえる。また、この公園は旧早良街道（板屋道）の傍にある。

梅林古墳（城南区梅林）

梅林古墳は5世紀後半のもので、1985年5～8月にかけて調査がなされている。福岡市教育委員会の説明文によると、その古墳は全長27メートル、後円部直径15.5メートル、高さ3メートルの前方後円墳である。玄室（遺体を安置するところ）の長さは3.9メートル、奥の幅が2メートル、前の幅が1.4メートルで床に石を敷きつめてあったとのことである。玄室からは須恵器、土師器、鉄器（鏃）、斧、たがね、刀子（とうす）のほか、鞍金具などの馬具、ガラス製の管玉や小玉などの装身具が出土されているとのことである。

GA企画編集部『福岡まるごとイラストマップ』GA企画,1999年10月. 116頁.

村下古墳（早良区重留）

重留村下遺跡群は油山山塊から西に延びる丘陵の先端部分から一段落ちた台地上に位置している。この付近は現在の重留1～2丁目にあたる所で、重留箱式石棺墓および須恵器窯である重留古窯跡などの存在が認められた所である。また、この付近に拝塚古墳、林遠里の勸農社跡、茶臼城址および土生長者宅跡などもある。

福岡市教育委員会「重留村下遺跡 一重留村下遺跡群第1次調査報告書第510集一」
1997年. 1～3頁.

拝塚古墳（早良区重留）

拝塚古墳は5世紀後半から6世紀前半のもので、早良区重留の拝塚（金屑川西側で、現在は圃場整備で田になっている）に、全長75メートル、後円部直径約45メートル、前方部の長さ約31メートル、周囲は濠で囲まれていたとのことである。濠の幅は約7～9メートルで、濠を含めた全長は90メートル近くになる古墳とのことである。古墳からの出土は人物埴輪とともに武具の盾、草摺の埴輪などとのことである。この古墳で出土されたものは福岡市博物館におさめられているとのことである。

この古墳の存在については、青柳種信の『筑前国続風土記拾遺』に舞星長者の記述のなかに拝塚がでてくる。

福岡市教育委員会「重留村下遺跡 一重留村下遺跡群第1次調査報告書第510集一」
1997年、1～3頁。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前国続風土記拾遺 下巻』文献出版、1993年6月、252～253頁。

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社、1995年11月、37～40頁。

荒平古墳群（早良区東入部）

現在の入部小学校の南東、東入部熊本の菟道岳入口周辺が荒平古墳群である。

福岡市教育委員会「四箇周辺遺跡調査報告書（7）」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第482集』福岡市教育委員会、1996年3月、2頁。

本城の古墳（早良区早良）

本城城址周辺の竹林の中に2基（3基あるともいわれている）存在している古墳をいう。『筑前国続風土記付録（中巻）』には白坂という野山の上に古墳五基があつて、吉田壱岐長利を葬った所といわれているが定かでないとのことである。長利は晩年水安とって、この地の代官をしこの村で亡くなり、後に福岡の金龍寺に葬ったとされている。白坂の古墳と本城の古墳とが同一のものであるかどうかは定かでない。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前国続風土記付録 中巻』文献出版、1977年12月、434頁。

夫婦塚古墳（西区金武乙石）

夫婦塚古墳は2基存在していたとのことであるが、現在は2号墳だけが竹ヤブの中にある。石室には須恵器、鉄製品（武具、工具および馬具など）、装身具類などが出土されているとのことである。

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社、1995年10月、44頁。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中
卷』文献出版,1977年12月.448頁.

(5) 人物について

亀井南冥・昭陽（中央区地行）

亀井南冥（1743（寛保 3）～1814（文化 11）年）は 1784（天明 4）年福岡藩校の東学問所「修猷館」（朱子学）とともに開設された西学問所「甘棠館（かんとうかん）」の学長となった。その後、朱子学が尊ばれるようになり、1792（寛政 4）年に甘棠館をやめさせられ、また甘棠館も火災になり廃校となったとのことである。南冥の長男である昭陽（1773（安永 2）～1836（天保 7）年）は父親南冥とともに私塾百道（ももち）社を作って門弟の育成をおこなっていたとのことである。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月. 510 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999 年 10 月. 361～362 頁.

頭山満（早良区西新）

頭山満（1855（安政 2）～1944（昭和 19）年）は明治・大正・昭和期の国家主義者である。頭山満は福岡藩士筒井亀策の三男であった。高場乱（たかば おさむ）の興志塾に学んでいる。1876（明治 9）年萩の乱に参加して入獄した。1879（明治 11）年向陽社を結成し、国会開設運動をおこなった。1881（明治 14）年玄洋社を結成し、右翼の巨頭として政界に強い影響力を及ぼしていたとのことである。頭山満の筒井家は現在の西新エルモール（旧西新岩田屋）のところにあった。電車道から細い路地を南の旧唐津街道へ抜ける途中に筒井家があり、その付近に井戸とクスノキがあった。クスノキは現在西新交番の西隣の公園に頭山満碑とともにある。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月. 1183 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999 年 10 月. 849～850 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995 年 11 月. 146～151 頁.

中野正剛（中央区今川）

中野正剛（1886（明治 19）～1943（昭和 18）年）は福岡市西湊町に旧福岡藩士中野泰次郎の長男として生まれている。早稲田大学の学生時代頭山満に接しその思想の影響を受けている。朝日新聞社の記者を経て、1930（大正 9）年衆議院議員（8 回当選）、憲政会、立憲民政党および国民同盟に所属している。その後、東方会を結成し、南進論や日独伊三国同盟などを提唱した。東条英機首相との対立で、憲兵の取調べを受け、昭和 18 年 10 月 27 日午前零時に自宅で割腹自殺したとのことである。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 1261頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 907頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987年11月. 164～165頁.

葉室豊吉（西区愛宕山）

愛宕山の北側の登り口から愛宕神社駐車場の手前の脇に鍾道神社（大山祇神社）の祠がある。その祠の裏にあたる西側に姪浜炭鉱の創業者であった葉室豊吉の顕彰碑がある。葉室豊吉は1854（安政元）年に生まれて炭鉱経営をおこなっていたが、1930（昭和5）年に77歳で亡くなっている。姪浜炭鉱は1962（昭和37）年閉山、姪浜炭鉱を所有していた早良炭業所の施設で現在も残っているのが早良病院および姪浜自動車教習所などである。

柳猛直『福岡歴史探訪 西区編』海鳥社,1995年6月. 151～157頁.

福岡市役所編纂『福岡市史 第二巻大正編』福岡市役所発行,1963年10月.733～743頁.

貝原篤信[益軒]（1630（寛永7）～1714（正徳4）年）

貝原篤信は江戸前・中期の儒教者、博物学者および教育家であり、貝原楽軒の弟である。益軒と楽軒は宮崎安貞の『農業全書』の添削をし、巻十一「附録」を執筆している。

貝原益軒は1648（慶安元）年に藩主黒田忠之公に仕えたが、藩主の怒りに触れて浪人となった。数年後に藩主黒田光之に仕え、命を受けて京都に約7年間遊学している。帰藩後、『黒田家譜』を編纂し、領内を巡検して『筑前国続風土記』を晩年をかけて完成させている。これらの他の著作物として『慎思録』、『養生訓』、『和俗童子訓』および『大和草本』がある。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 434頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 309頁.

岡田武彦監修『ふくおか人物誌（1） 貝原益軒』西日本新聞社,1993年7月.

青柳種信（1768（明和3）～1835（天保6）年）

青柳種信は江戸後期の国学者で、地行の足軽の家に生まれた。通称は勝次といい、号は柳園という。種信は本居宣長に師事していた。また、1812（文化9）年伊能忠敬の筑前測量を補佐している。さらに、忠敬の委嘱を受けて『宗像宮略記』および『後漢金印略考』などを執筆し、『筑前国続風土記拾遺 上・中・下』を刊行している。種信の墓所は早良区祖原の顕乗寺の寺内に号で「柳園翁之墓」と刻まれた墓石がそれである。住職によれば、

現在その墓には骨はないとのことであった。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 9頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 7頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年6月. 130～133頁.

伊藤常足（1774（安永3）～1858（安政5）年）

伊藤常足（いとう つねたる）は国学者である。家は代々鞍手郡古門村の古門村八剣神社の神官で、伊藤常成の次男として生まれた。長男が早世のため家を継ぐとともに、亀井南冥に儒学を学び、青柳種信に国学を学んだ。1804（文化元）年の31歳の時、大宰府管内9国2島の地誌編纂を志し、1841（天保12）年に『太宰管内志』を完成させ、藩公に献上した。また、1830（天保元）年志摩郡桜井神社に文庫と学舎を設けて、子弟に教授している。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 178頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 127頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987年11月. 17～18頁.

宮崎安貞（1623（元和9）～1697（元禄10）年）

宮崎安貞は江戸前期の農学者で、1623年に安芸国広島藩士であった宮崎儀右門の次男として生まれた。25歳の時、福岡藩主黒田忠之に山林奉行として仕えたが、若くしてその職を辞して福岡藩を離れ、九州・山陽・近畿といった諸国を巡り農事研究を積み重ねた。現在の福岡市西区女原に帰り、郷土の農業改善や農民生活の向上などに貢献している。わが国初の農書である『農業全書』（全10巻）を1696（元禄9）年に刊行している。その翌年の1697年に75歳で亡くなったとのことである。

宮崎安貞『農業全書 巻一～巻五』農山漁村文化協会,2001年5月.

宮崎安貞『農業全書 巻六～巻十』（含：貝原楽軒・益軒の巻十一「附録」）農山漁村文化協会,1998年3月.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 1688頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 1221頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 西区編』海鳥社,1995年6月. 135～139頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987年11月. 272～273頁.

伊佐治八郎（1847（弘化4）～1907（明治40）年）

伊佐治八郎（いさ じはちろう）は弘化4年に小田部の農家の長男として生まれた。この伊佐家の先祖は安楽平城主の家臣の一人であり、落城後小田部に住みつき、代々農業を営んできた。治八郎は篤農家でありながらも横井時敬の指導を受けて新しい農法を身につけた。治八郎は山形県酒田の本間家から招かれ乾田化と馬耕とを用いる筑前農法を指導している。その農法を酒田の篤農家である阿部亀治によって、冷害に強い稲穂を見つけ、それを品種改良して「亀の尾」という明治三大品種（他に「神力」と「愛国」）の一つを開発している。

大西伍一『改訂増補 日本老農伝』農山漁村文化協会,1985年12月.643頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年6月. 85～91頁.

林遠里（1831（天保2）～1906（明治39）年）

林遠里（はやし えんり）は明治三大老農の一人で、早良郡鳥飼村生まれの旧福岡藩士である。祖父は林掃部直利（はやし かもんなおとし：黒田二十五騎の一人）である。遠里は1865（慶応元）年に鉄砲術の指導者となったが、廃藩によって40歳のとき早良郡重留に移り稲作の研究をおこなっている。とくに種籾（たねもみ）の貯蔵「土圀法」と予措（よそ）「寒水浸法」を陰陽論を用いて説いた『勸農新書』を1877（明治10）年に刊行している。私塾である「勸農社」を1883（明治16）年に設立し、「筑前農法」あるいは「西南農法」の普及と無床犁（むしょうすき）である「抱持立犁（かかえもつたてすき）」の操作を指導する馬耕教師の養成をおこない、社員として全国に派遣している。遠里自らも各地を講演旅行し、1889（明治22）年にはドイツのハンブルグで開かれた共進会の日本代表として渡欧し、フランス、イタリア、アメリカを回って1890（明治23）年3月に帰国している。遠里農法は政府要人の支持を得て隆盛を得たとのことであるが、1887年以降（明治20年代）に横井時敬との稲作論争に敗れ衰退していったとのことである。この時代の農法は磯野や深見という梵鐘などを鑄造していた博多の鑄造所の技術が新しい農具を製作したことで大いに関係があるものと思われる。

林遠里「勸農新書」『明治農書全集 第一巻』農山漁村文化協会,1983年8月.17～58頁.

大西伍一『改訂増補 日本老農伝』農山漁村文化協会,1985年12月.547～582頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編 林遠里・勸農社」『福岡県史』福岡県,1992年3月.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 1394頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 1011頁.

井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987年11月. 222頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年6月. 74～84頁.

横井時敬（1860（万延元）～1927（昭和2）年）

横井時敬（よこい ときよし）は肥後（現在の熊本）生まれで、明治・大正期の農業指導者である。時敬は駒場農学校（現東京大学農学部）を卒業し、福岡農業校教諭となり、その後福岡県勸業試験場長を経て、1900（明治33）年に東京帝国大学教授となった。さらに、その後東京農業大学の初代学長となった。時敬は種籾の「塩水撰法（えんすいせんほう）」を開発した。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 1819頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 1315頁.

横井時敬「重要作物 塩水撰法」『明治農書全集 第一巻』農山漁村文化協会,1983年8月.59～98頁.

栄西（早良区脇山）

栄西（1141（永治元）年～1215（建保3）年）は明庵栄西（みょうあん ようさい）といい臨済宗の開祖である。栄西は1168（仁安3）年に宋に渡り、天台山万年寺の虚庵懐徹（きあん えじょう）に臨済禅を学び、1191（建久2）年に帰国した。博多の聖福寺などを開いて禅宗を広め、後に京都に上った。宋からの帰国のとき日本に初めて茶を持ち帰り、背振山に茶の種をまき、茶祖としても有名である。

井上精三『博多郷土史』葦,1987年11月.25～26頁.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995年5月. 1693～1694頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999年10月. 1225頁.

白水養禎（早良区内野）

白水養禎（1780（安永9）～1849（嘉永2）年）は、天保年間に福岡藩の財政立て直しに貢献した早良郡内野村に住む藩医（眼科）であった。大量の銀札を発行し物資の流通を

促し、観光街をつくり諸国の人を呼び寄せ金を落とさせるという景気浮上策であったが、インフレーションが生じ成果はあがらなかった。それに加えて、1836（天保 7）年の梅雨は連日の大雨で農作物は凶作となったことがその策が成果を得なかったことに通じることであった。そのため、養禎は内野に閑居した後、玄海島に流刑となり、またその後内野に戻り、1849 年に 69 歳で亡くなったとのことである。

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995 年 11 月. 69～73 頁.

野村望東尼（1806（文化 3）～1867（慶応 3）年）

野村望東尼は幕末期の女流歌人で、勤皇家でもあった。望東尼は福岡藩士浦野勝幸の 3 女で、同藩士野村貞貫の後妻になる。夫の生前のときから夫婦で和歌を大隈言道に学んでいる。夫の死後剃髪し、名も望東（もと）から望東尼（ぼうとうに）と称すようになった。そして、平尾山荘に住み高杉晋作、平野国臣および西郷隆盛らの尊攘派志士と交流をもった。1866（慶応元）年に福岡藩の尊攘派処断に連座して姫島（現福岡県糸島郡志摩町）に流刑されたが、翌年高杉晋作が救出し、三田尻（現山口県防府市三田尻町）に移ったが、病死したとのことである。福岡市中央区護国神社の近くにある「ふくろうの森」の入口の坂道に望東尼「生誕の地」の石碑があり、「ふくろうの森」から 4,5 分南へ下れば加藤司書の家跡の石碑がある。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月. 1349 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999 年 10 月. 975 頁.

加藤司書[加藤徳成]（1830（天保元）～1865（慶応元）年）

加藤司書は 2,800 石の福岡藩士加藤徳裕の子で、福岡藩尊攘派の中心人物の 1 である。安政年間（1854～59 年）に中老から執政に進み、藩政改革につとめた。しかし、長州藩の志士と交わり福岡藩尊攘派の中心人物の 1 人となる。第 1 次長州戦争のときには、征長軍の解兵のために奔走し、その後西郷隆盛らと薩長連合のため尽くすが、佐幕派が藩論を握るに及び閉門切腹となった。平尾山荘において、司書は高杉晋作との会見をおこなっている。

加藤司書は早良郡金武村、筑紫郡岩戸村および日佐村平原等の領地に赴き、農民とともに酒を酌み交わすことを楽しみとしているとの記述があり、勤皇主義とともに平等思想を有していた人物であった。

司書会編『加藤司書傳』司書会,1934 年 4 月（復刻版）. 1～11 頁,39 頁,115～121 頁.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月. 480～481 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改定新版』三省堂,1999 年 10 月. 343 頁.

(6) 城址について

探題城址（浦山城址）（西区愛宕）

鎌倉幕府が元寇後、九州を統制するために鎮西探題を置いた。室町幕府になって九州探題として継承され、1396～1424年の応永年間において、渋川氏が代々務めていた。

宗祇（そうき）筑紫紀行において浦山の景色を絶賛および渋川探題の城址の記述がある。

ケーブルカー跡

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 521～522頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.324頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.452頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.450頁,626～627頁.

丸隈山[探題出城址]（西区小戸）

丸隈山は射場ともいい、渋川堯頭が探題の出城とした所といわれている。現在は頂上に毘沙門天が祭られており、この像は自然石の平板に三神体を線による彫刻がなされている。

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.324頁.

西島弘編『姪の浜を中心とした郷土史誌』野村六郎発行,1992年6月.136～138頁.

堀の内城址（早良区有田）

小田部氏の里城で、現在は西福岡高校となっているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 123頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.261頁.

都地城[ついじじょう]址（西区金武）

細川五位尉蔵人光行の城址である。光行は1532（天文元）年足利氏の命によって、九州の治安を守るためにこの地に来、若狭守と称して城を構えたとのことである。1558（永禄元）年に小田部紹叱（おたべ しょうしつ）と戦い戦死したとのことである。その後、光行の子

である左近助は龍造寺隆信に協力し、小田部を討ったとのことである。小早川時代はこの地の代官となっているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 398頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999年7月.福岡県城址一覧の 27頁.

飯盛城址（西区飯盛:飯盛神社上宮）

飯盛山の山頂に 1391 年（北朝では康安元年：南朝では正平 16 年）に北朝方の松浦党が籠城したが、南朝方の菊池肥後守武光に攻められ落城した。その後、高祖城（たかすじょう）の原田了榮の端城になるとの記述がある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.627頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 396～397頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999年7月.福岡県城址一覧の 28頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月. 208～211頁,527～529頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.444頁.

茶臼城址（早良区重留）

土生宗觀の居城の址で、宗觀の祖は豊後より重留に来、711（和銅 4）年に築城したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 230頁.

石津司『安楽平城物語 その6』38頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999年7月.福岡県城址一覧の 26頁.

菟道岳城址（早良区東入部）

東入部の隈本（熊本）に荒平城の出城として存在したとの記述がある。また、弘安の役当時見張り所を設けた跡との伝承もある。

ところで、菟道岳城址へのルートは現在の東入部にある高田食品工業（醤油）より東南へ入ってゆくが、その山への上り口付近には当時の入部地方を管領していた入部麿の墓や現在まで岩田屋百貨店の経営者であった中牟田家ルーツの墓などがこの地の歴史的史跡等が多く存在している

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.531頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編230頁,232頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編 福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995年3月.74頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.425～426頁.

荒平城（安楽平城）址、荒平神社、小田部親子の墓、小田部鎮元自刃の碑、荒平武家屋敷址（早良区重留および早良区脇山など）

荒平城は大友5城[荒平城（早良区東入部）、鷲ヶ岳城（那珂川町南面里）、岩屋城（太宰府）、立花城（新宮町立花口）および柑子岳城（草場城：西区今津）]の一つで小田部鎮元（おたべしずもと）の居城である。城は油山連山の一峰である荒平山（標高394.9メートル）の頂上に約300坪の本丸跡がある。平戸より松浦鎮隆が荒平城に入り、小田部姓を受け継いだとされている。この小田部民部少鎮隆の養子として鷲ヶ岳城主大鶴宗雲の2男であった鎮元が荒平城主となった。

荒平城は肥前龍造寺隆信の3男である江上下総守家種を総大将に執行越前守、神代対馬守長良、曲淵河内守および山伏大教坊（中納言藤原兼光）などによって攻撃された。山伏大教坊は打ち負かしたが、立花城主立花道雪の援軍は間に合わず1579（天正7）年落城した。荒平城主の家臣やその末裔には、次郎丸の松尾大善（早良区次郎丸）、伊佐家（早良区小田部および高取（大西））および中牟田家（早良区東入部（熊本））などが有名である。

現在の早良区谷のバス停から荒平参道の道を城の原林道に進んでいくと林道の途中に「荒平神社」があり、そこに「小田部父子の墓」が3基ある。そこから上り坂を登りつめると「小田部鎮元の墓」と「小田部鎮元自刃之地」の碑がある。さらに、そこから夜叉谷経由で山頂の荒平城址に着く。

また荒平城には現在の早良区入部の早良更生園から2つのルート（早良更生園の西側と南側）があり、そのうちの1つである南側ルートは金屑川の源流につながっており、その奥には荒平武家屋敷址（荒平城下町）といわれている伝承の地がある。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.531～532頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月.422頁、627頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985年12月.328頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.627～631頁.

伊藤常足編録『太宰管内史 上巻 筑前之部』日本歴史地理学会,1908年9月.174～176頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.前編 226頁、後編 229頁.

吉永正春『筑前戦国史』葦書房,1997年6月.132～142頁.

石津司『安楽平城物語 その6』38頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999年7月.244～246頁.

廣崎篤夫「ふくおか古城散策 第19回 荒平城（安楽平城）・鷲ヶ岳城」『グラフ ふくおか』2001年6・7月.24～25頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編 福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995年3月. 28頁、79～83頁.

本城城址（早良区早良）

龍造寺隆信による安楽平城攻撃の時に執行越前が本陣を置いた所とされている。安楽平城から南西にある本城山の山麓に位置している。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.530～531頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 342～343頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999年7月.福岡県城址一覧の27頁.

馬立山（早良区内野）

執行越前が安楽平城（荒平城）を攻めるときに丘の上に陣馬を立てた所で、これよりこの丘を馬立山と言われている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 290～291頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.530～531頁.

池田城址（早良区脇山）、山伏大教坊の墓（早良区脇山）

山伏大教坊（中納言藤原兼光）の居城の址で池田山（241メートル）の山頂にあったとされる。池田城は池田大日堂の西南3町（約327メートル）付近との記述がなされている。

山伏大教坊の墓および坊屋敷は池田大日堂の右斜面および正面入口の右側にそれぞれある。

吉永正春『筑前戦国史』葦書房,1997年6月.134頁.

石津司『安楽平城物語 その3』43頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編 福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995年3月.28頁.

曲淵城址、曲淵神社（早良区曲淵）

曲淵河内守房助の子である信助の居城の址である。曲淵氏は曲淵、石釜、西、金武、四箇、田、次郎丸、野芥、七隈、荒江および亀原等を領し、高祖の原田氏に属していたとのことである。曲淵神社は曲淵ダム建設にともない、1918（大正7）年に現在地の曲淵城址に移されたとのことである。神社は950（天曆4）年肥後国の落人であった小国源左衛門によって建立されたといわれている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編324頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999年7月.福岡県城址一覧の27頁.

早良区総務部市民相談室『早良散策』早良区総務部市民相談室,1991年3月.11頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001年6月.631頁

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.529頁.

(7) 炭鉱について

西新炭鉱（早良区祖原）

西新炭鉱は1891,92（明治24,5）年頃から1909（明治42）年まで、西新町地内で採掘がなされてきたが、あまり振るわなかったとされている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月. 190頁.

大日本帝国陸地測量部『明治33年測図 福岡』1904年.

亀原炭鉱（早良区曙）

西新炭鉱が振るわず、1909（明治42）年ごろから西新町亀原の南端亀原山麓で石炭が採掘され始めた。当初この炭鉱は狸穴式（クワとモッコによる採炭）で、山本唯三郎（大正の虎狩将軍松昌洋行）による買収後堅抗式（捲胴すなわちリフト）による採炭で出炭量を増やしていったとのことである。この付近は落盤によって田が陥落し、その陥落地に蓮を植え付けているとのことであった。この亀原炭鉱は寛政年間において糟屋郡、遠賀郡、鞍手郡、嘉麻郡および穂波郡等で石炭が出、早良郡亀原村においても石炭があることを認める記述が『筑前国続風土記付録』に記述されているということが『福岡県史資料 別輯』に掲載されている。亀原炭鉱は鳥飼炭鉱と関連しているのでそちらを参照のこと。

福岡市役所『福岡市史第2巻大正編』1963年10月. 733～743頁.

伊東尾四郎編『福岡県史資料 別輯』1973年10月. 16～17頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月. 190頁.

大日本帝国陸地測量部『大正15年測図 福岡西南部』1929年10月.

鳥飼炭鉱（城南区鳥飼）

山本唯三郎は亀原坑を福岡炭坑第1坑西坑とし、鳥飼の西ヶ崎を同東坑として採炭をおこなった。亀原と西ヶ崎の両所には数十棟の坑夫納屋があったとのことである。福岡市史によれば、石炭の運搬は鳥飼炭鉱（東坑）から亀原炭鉱（西坑）を通じ、亀原山の南端を経て西新町藤崎までの田や山林等を買収し、石炭運搬の専用道路を作り、藤崎で北筑軌道につなぎ、糸島の今宿に運搬した。ここから、石炭は満鉄および鮮鉄等に輸出していたとのことであった。大日本帝国陸地測量部の地図において、専用道路は現在の鳥飼小学校、亀原山の南側、高取幼稚園の裏、紅葉山の南西および早良口までが掲載されている。伝承ではその専用道路に特殊軌道（引込み線）があったとのことであった。もちろん、鳥飼炭鉱では、それ以外の手段として、樋井川を通じて積み出しがなされていたとのことである。

福岡市役所『福岡市史第2巻大正編』1963年10月. 733～743頁.

大日本帝国陸地測量部『大正15年測図 福岡西南部』1929年10月.

西日本新聞社『写真集 福岡100年』西日本新聞社,1985年6月. 77頁,399頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 南区・城南区編』海鳥社,1994年6月. 178～182頁.

「北筑軌道」について、<http://www.asahi-net.or.jp/~yc4k-hrd/abolish.htm> および
http://ty-land.honest.net/railway/kyuusyuu-okinawa/fukuoka/fukuoka_index.htm

樋井川炭鉱（城南区笹丘）

早良群志では、1894（明治27）年から採掘許可が出され、大正8年に豊国鉱業株式会社が業を起したと記述されている。この炭鉱は鳥飼炭鉱の南東の樋井川沿いにあり、鳥飼炭鉱と同様、運搬はこの川を通じておこなわれていたと思われる。大日本帝国陸地測量部（大正15年測量）の地図上では、樋井川炭鉱から荒江の櫛田神社の北、筑肥線西新駅の南（大牟田）、庄の南を経由して姪浜炭鉱第二坑の積出港へのルートもみられるが、伝承を聞いた訳でないので定かでない。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月. 191頁.

大日本帝国陸地測量部『大正15年測図 福岡西南部』1929年10月.

姪浜炭鉱（西区愛宕および小戸）

姪浜炭鉱は1911（明治44）年に試掘の出願し、1912（大正元）年7月に着手がなされている。坑口は愛宕山の裏で現在の豊浜周辺を第1坑口、小戸公園付近に第2坑口での採炭がなされていた。室見川河口に栈橋が設けられ、そこから運搬されていたとのことである。販路は満鉄、鮮鉄、名古屋、東京、岡山、横浜、広島、大阪、釜山、鉄道省、門司および大連等であったとされている。また、姪浜炭鉱の創業者は葉室豊吉で、愛宕山にある大山祇神社の祠の西側に「葉室翁頌功碑」がある。

福岡市役所『福岡市史第2巻大正編』1963年10月31日. 733～743頁.

西日本新聞社『写真集 福岡100年』西日本新聞社,1985年11月. 57頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月. 191～192頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 西区編』海鳥社,1995年6月. 151～157頁.

西島弘編著『姪の浜を中心とした郷土史誌』野村六郎発行,1992年6月.150～159頁.

姪友会古里研究会『郷土写真集 2002年 姪浜とその周辺』姪友会,2002年2月. 14～15頁,21～26頁,50～54頁.

「姪浜炭鉱」について、<http://record.museum.kyushu-u.ac.jp/sekitan/etc1.htm>

6. 早良郡逍遙マップ

本章では、1章で説明している旧早良街道、旧三瀬街道および太閤道の逍遙マップと、5章で説明している史蹟名勝等の逍遙マップを提供している。これらのマップを見て、逍遙をされる方は市販されている地図と併用されることをお勧めしたい。6章の逍遙マップは、5章の区分による説明と異なり、原則として北から南への小地域単位での提供となっている。

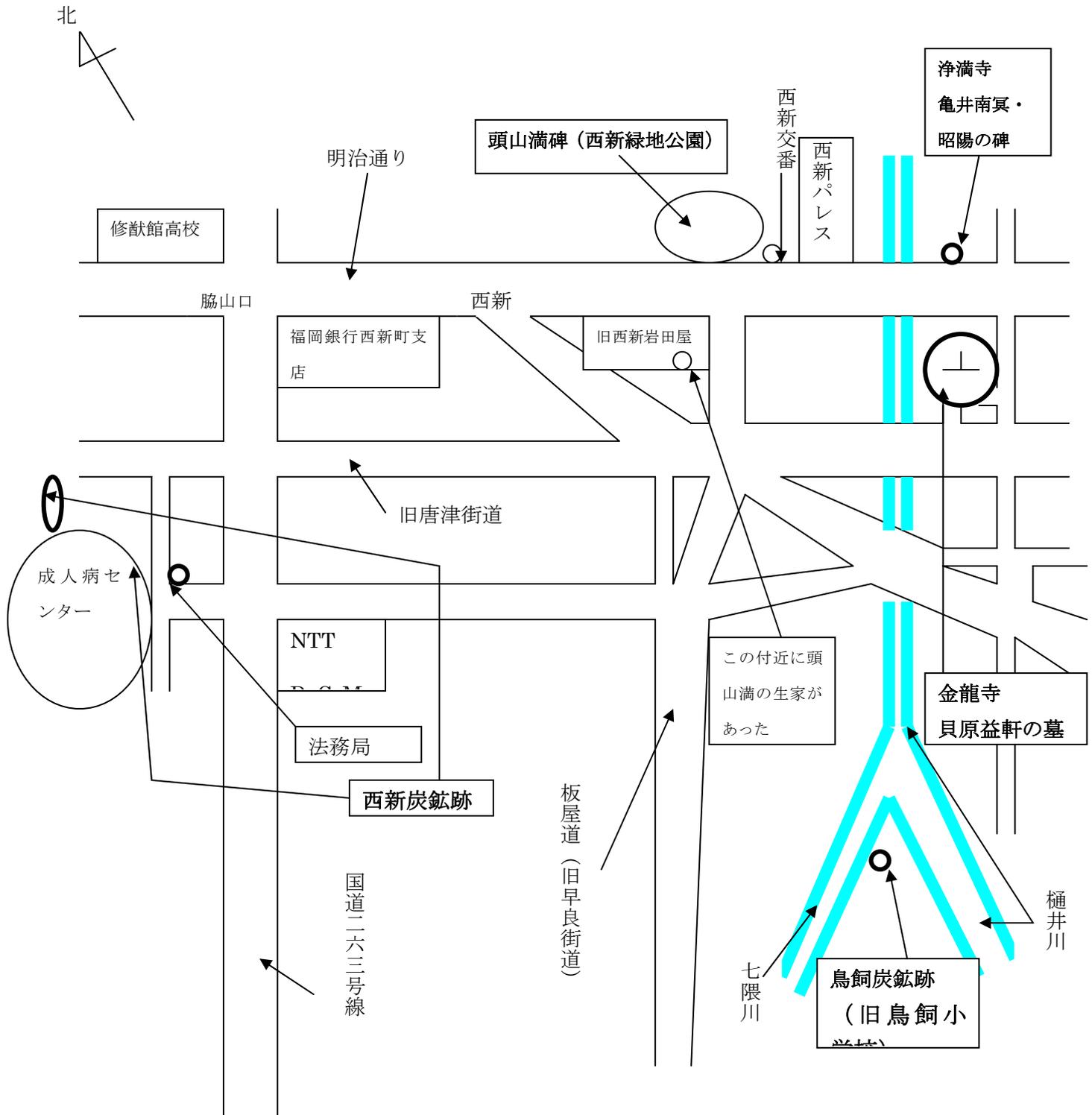
貝原篤信 [益軒] の墓 (福岡市中央区今川 2-3-23 の金龍寺内)

亀井南冥・昭陽の碑 (福岡市中央区地行 2-3-3 の浄満寺内)

頭山満碑 (福岡市早良区西新 2-10-15 の西新交番の西隣にある西新緑地公園内)

西新炭鋺跡 (成人病センター及び法務局付近)

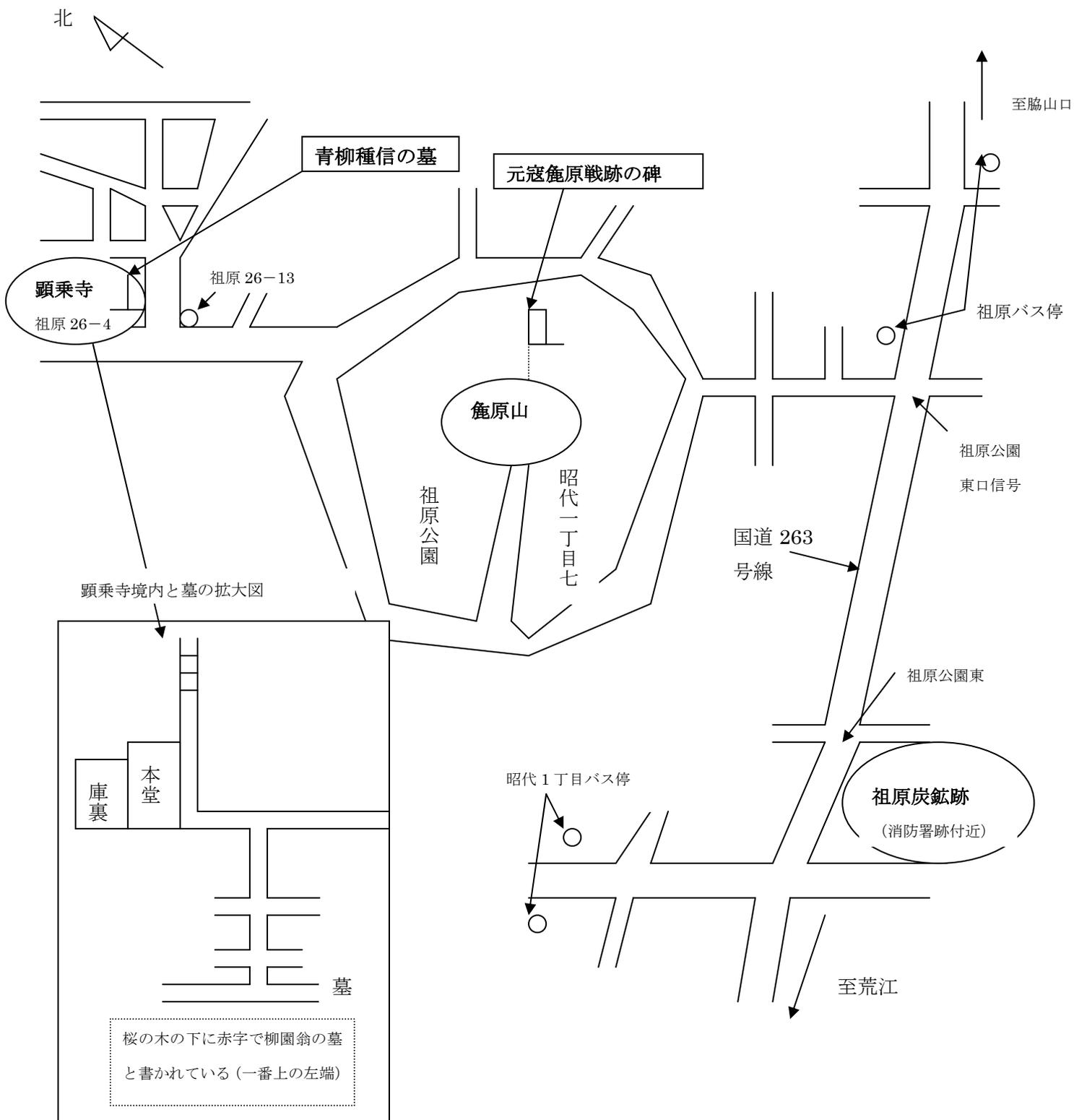
鳥飼炭鋺跡 (福岡市城南区鳥飼 5-20 の旧鳥飼小学校及びその周辺のアパート群)



青柳種信の墓（福岡市早良区祖原 26-4 の顕乗寺内）

亀原山の元寇亀原戦跡の碑（祖原公園内）

亀原炭鋳跡（福岡市早良区曙 2-11 付近）

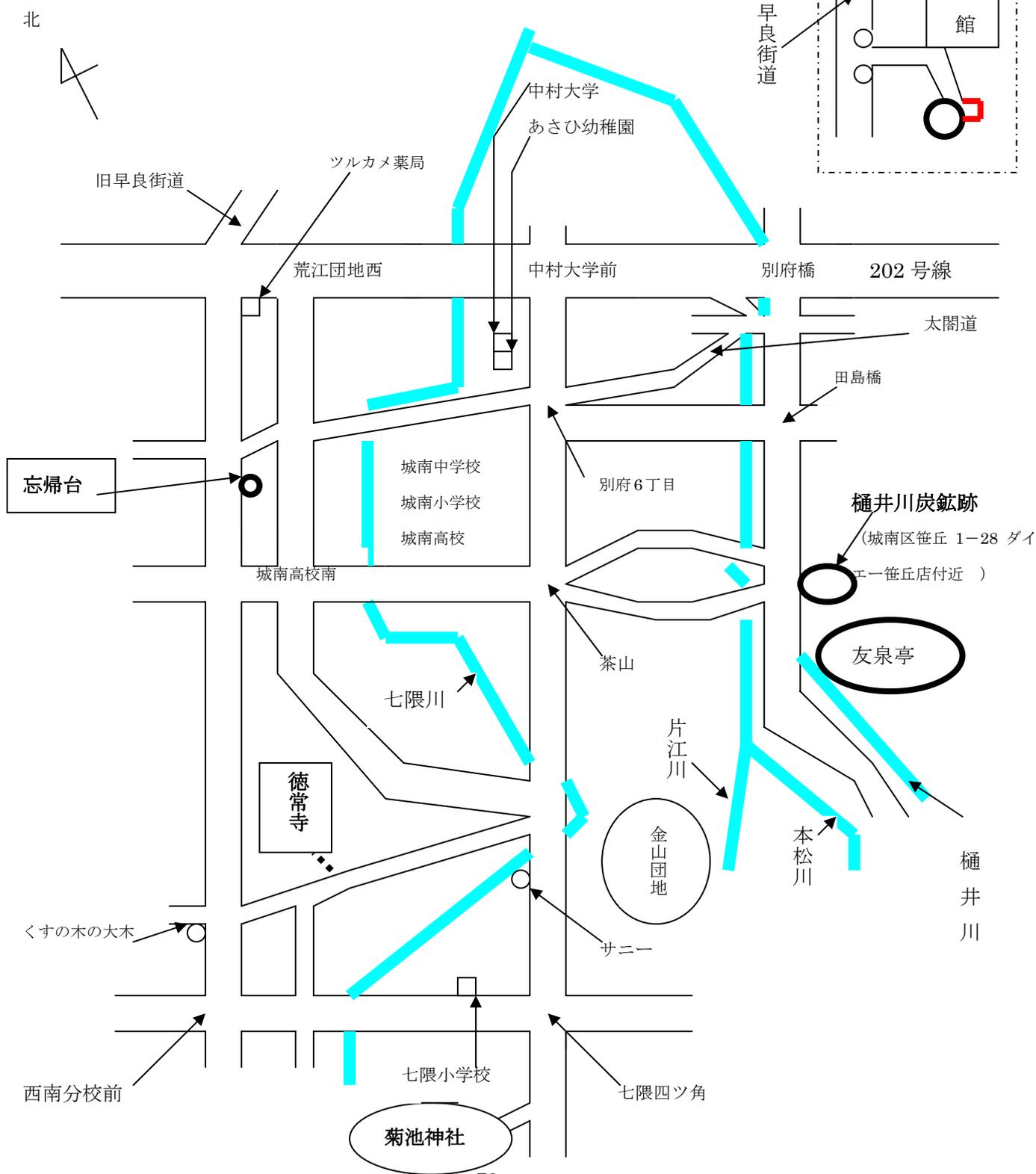
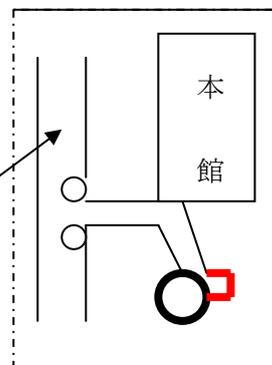


- 元寇防塁跡（福岡市早良区西新 7-4 付近の西南会館前）
- 元寇防塁跡（福岡市早良区百道 1-6 付近、西福岡税務署に近く）
- 千眼寺（福岡市早良区百道 1-3-6）
- 高取焼[東皿山]（福岡市早良区西新 5-10-86 の浦賀神社に案内板）
- 高取焼[西皿山]（福岡市早良区高取 1-26-61）
- 紅葉八幡宮（福岡市早良区高取 1-26 付近）
- 山の神社（福岡市早良区高取 2-5 の第 2 高島コーポ駐車場の奥から山に登る）
- 猿田彦神社（福岡市早良区藤崎 1-1-27 付近）
- 一里塚（福岡市早良区藤崎 1-24-1 の福田眼科医院玄関前）
- 大西（福岡市早良区高取 1 丁目付近）



- 忘帰台（福岡市城南区七隈 1-1-10 の末永文化センター内）
- 樋井川炭鋳跡（福岡市城南区笹丘 1-28：ダイエー笹丘店付近）
- 友泉亭（福岡市城南区友泉亭 1-46）
- 徳常寺（福岡市城南区七隈 3-10-18）
- 菊池神社（福岡市城南区七隈 7-3-8 及び 7-10 付近）

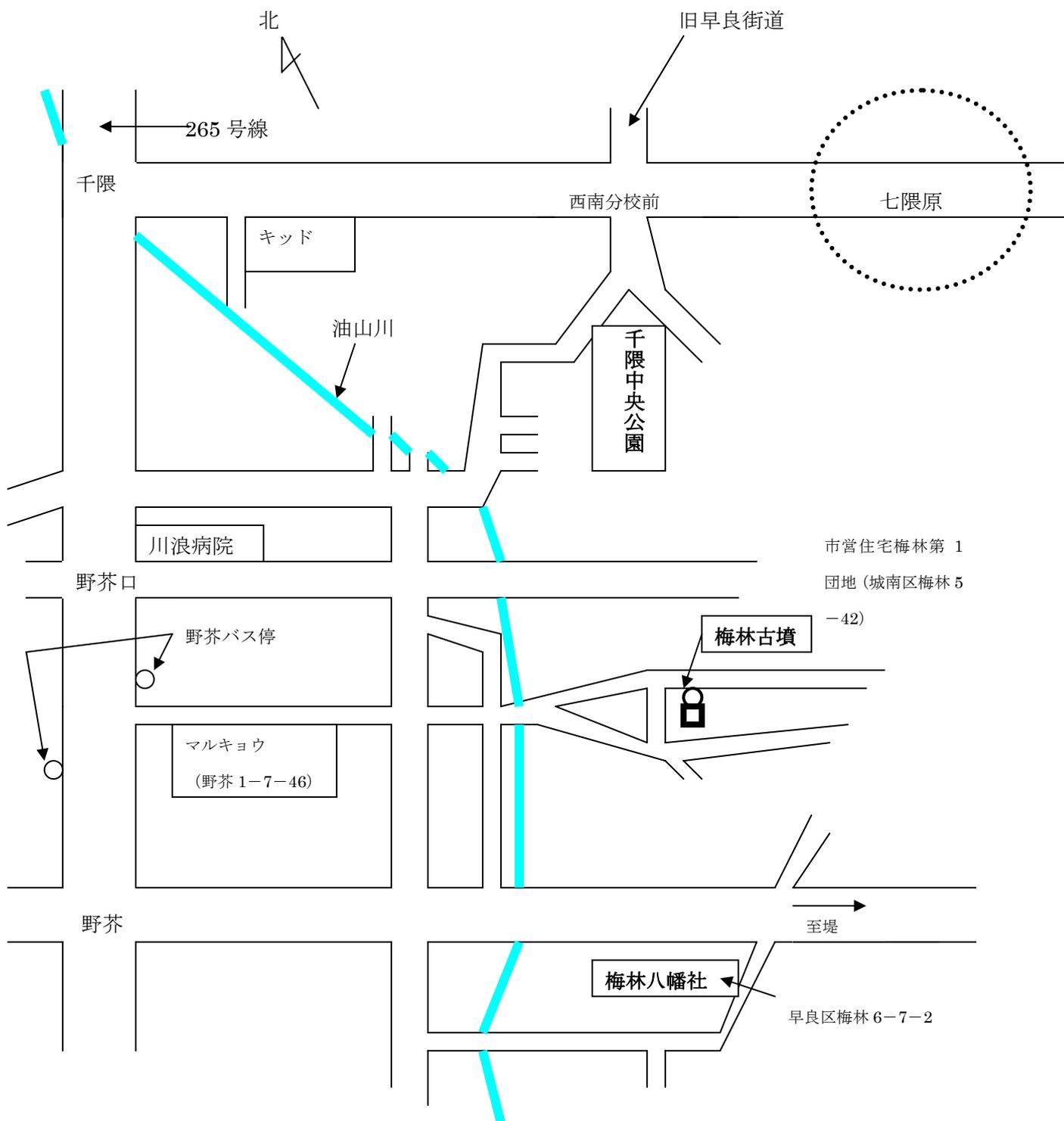
末永文化センター内



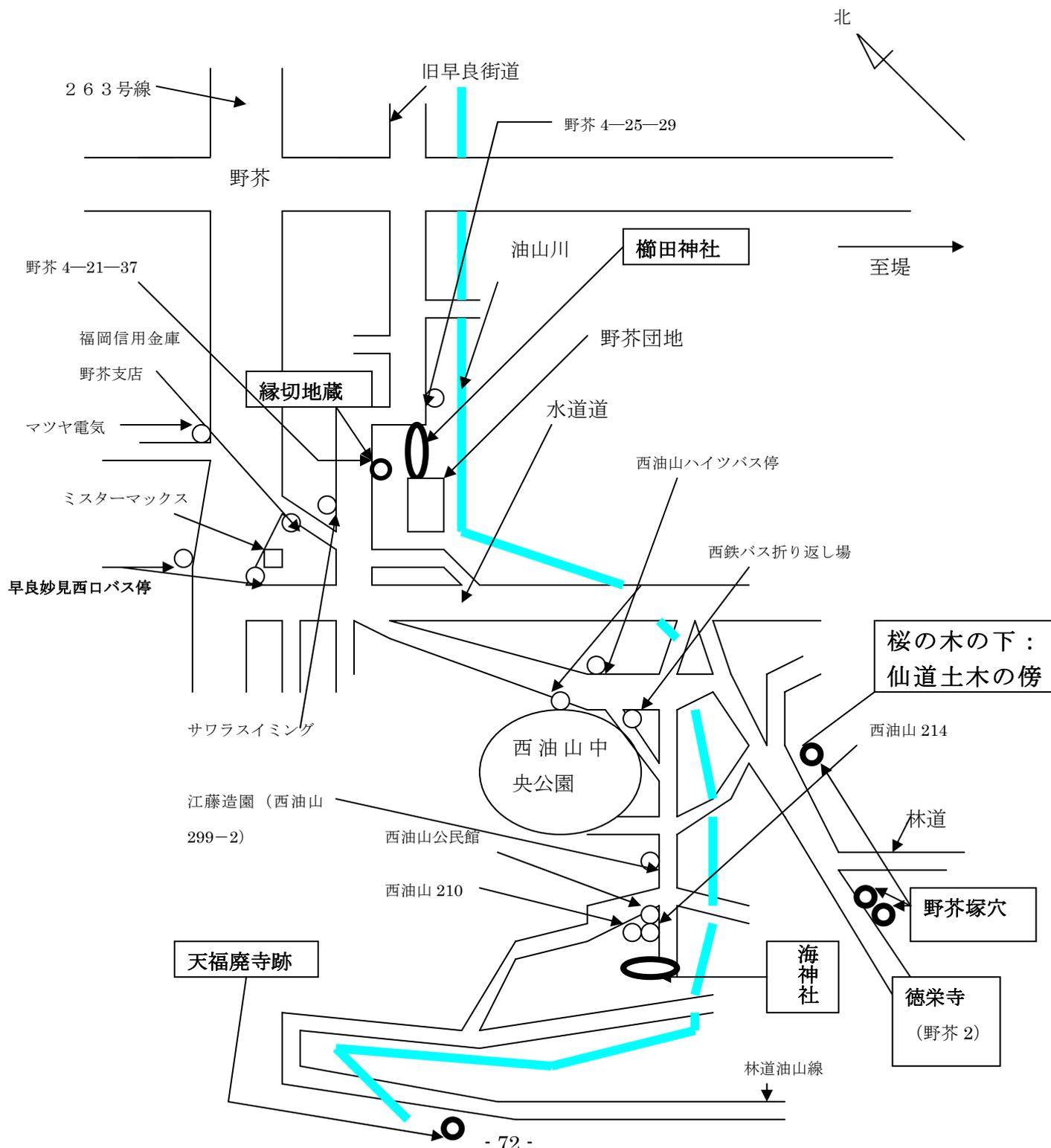
千隈中央公園（福岡市城南区千隈 2-11 付近）

梅林古墳（福岡市城南区梅林 5-42 付近）

梅林八幡社（福岡市早良区梅林 6-7-2）



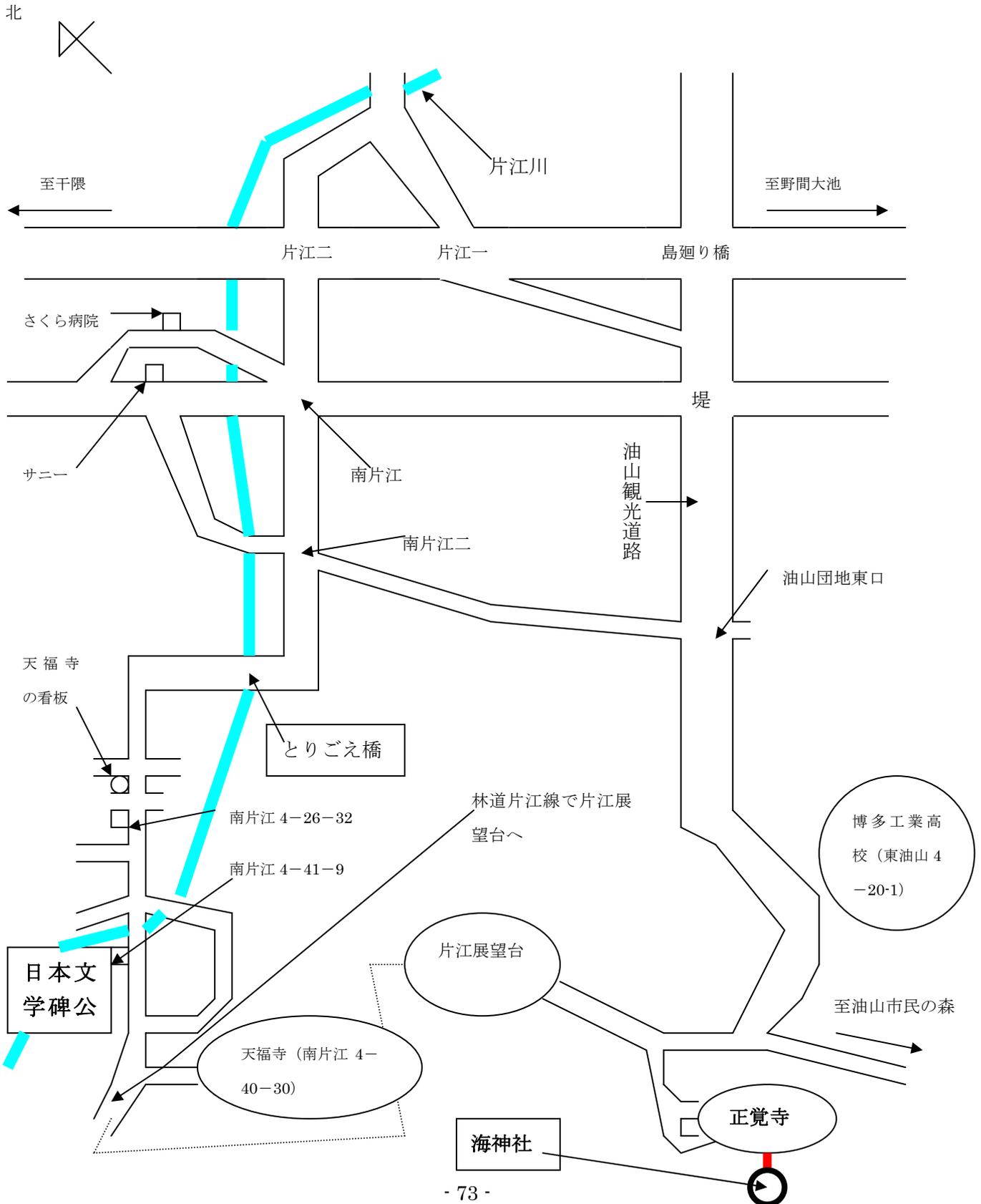
- 櫛田神社 (福岡市早良区野芥 4-25-29 付近)
- 縁切地蔵 (福岡市早良区野芥 4-21-37 付近)
- 野芥塚穴 (福岡市早良区野芥 2 の徳栄寺へ行くときにある林道の横)
- 徳栄寺 (福岡市早良区野芥 2)
- 海神社 (福岡市早良区西油山 214 の南)
- 天福寺廃寺跡[坊城の跡] (福岡市油山の中腹付近)



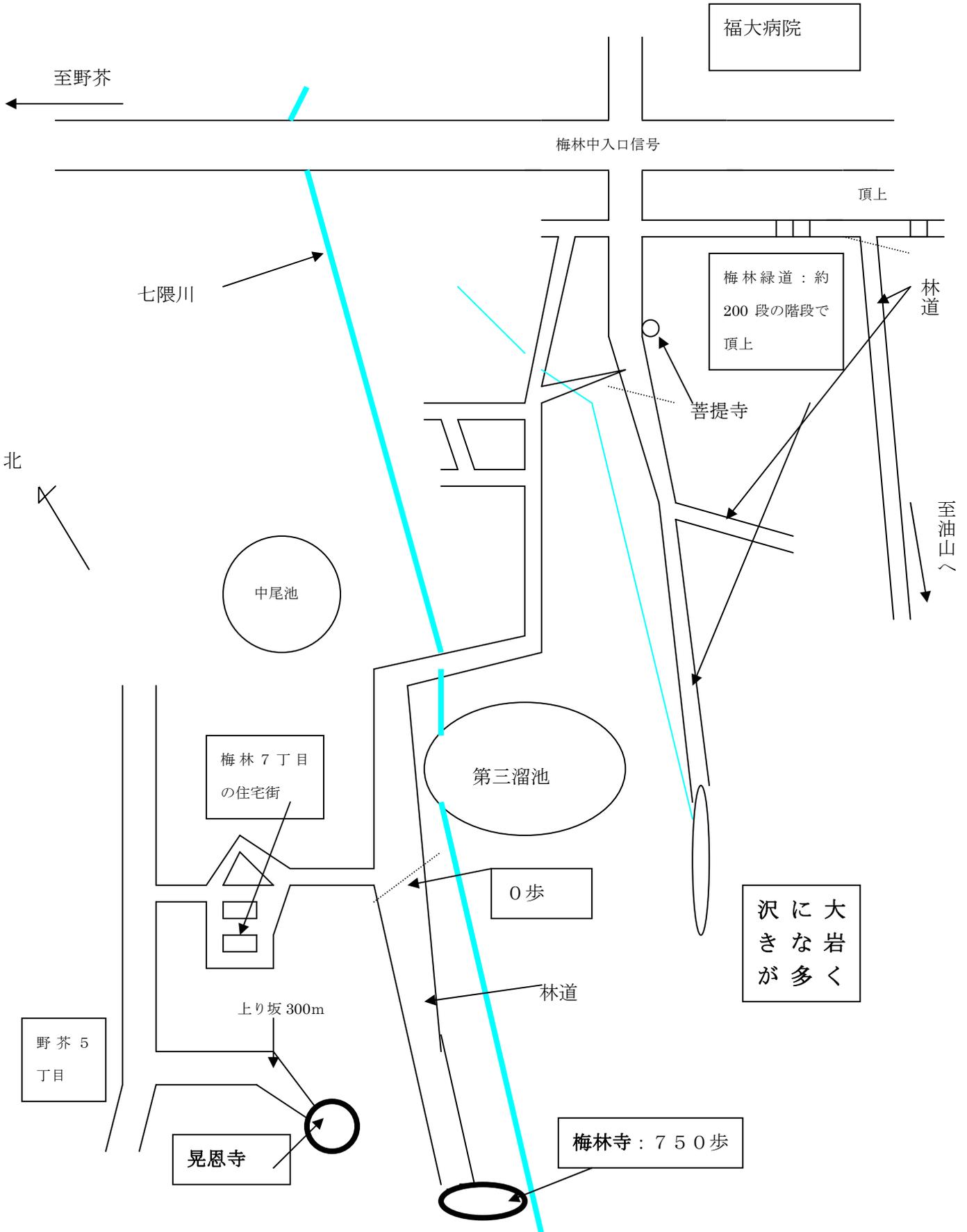
正覚寺[ひばり観音：油山観音](福岡市城南区東油山 508)

海神社 (正覚寺の南)

日本文学碑公園 (福岡市城南区南片江 4-41 及び 4-40)



梅林寺 (福岡市城南区梅林 646)
晃恩寺祈念祈祷所 (福岡市早良区野芥 3)



村下古墳 (福岡市早良区重留 1 丁目、2 丁目及び 6 丁目周辺)

拝塚古墳 (福岡市早良区重留 993 付近)

寶満宮 (福岡市早良区重留 2-16)

林遠里の墓碑 (福岡市早良区重留 4-12 付近)

林遠里[勸農社跡] (福岡市早良区重留 4-11-47)

重留長者屋敷跡 (福岡市早良区重留 4-6-6 付近)

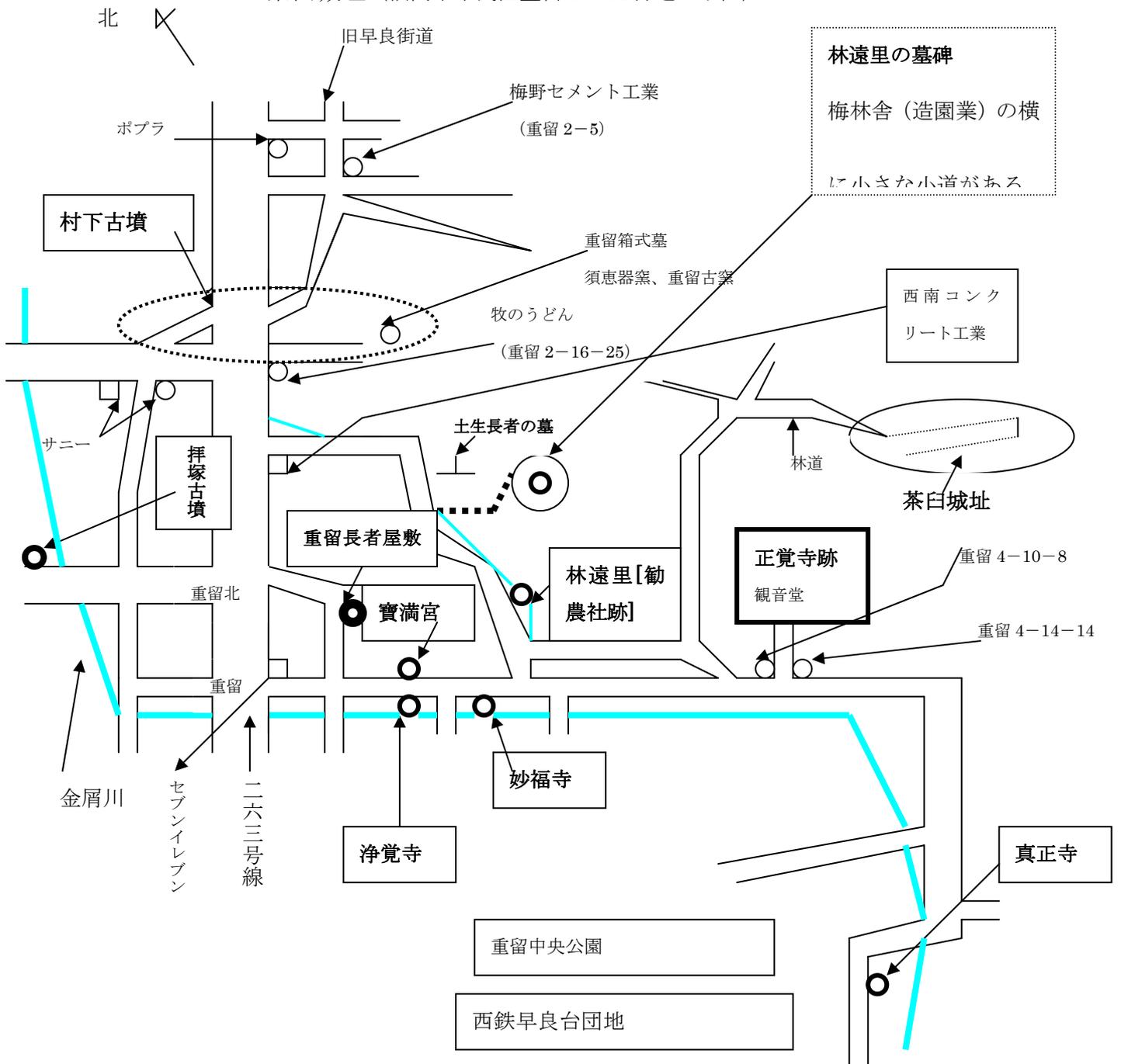
正覚寺跡 (福岡市早良区重留 4-14-14 の北にある**観音堂**)

浄覚寺 (福岡市早良区重留 5-3-8)

妙福寺 (福岡市早良区重留 5-8-10)

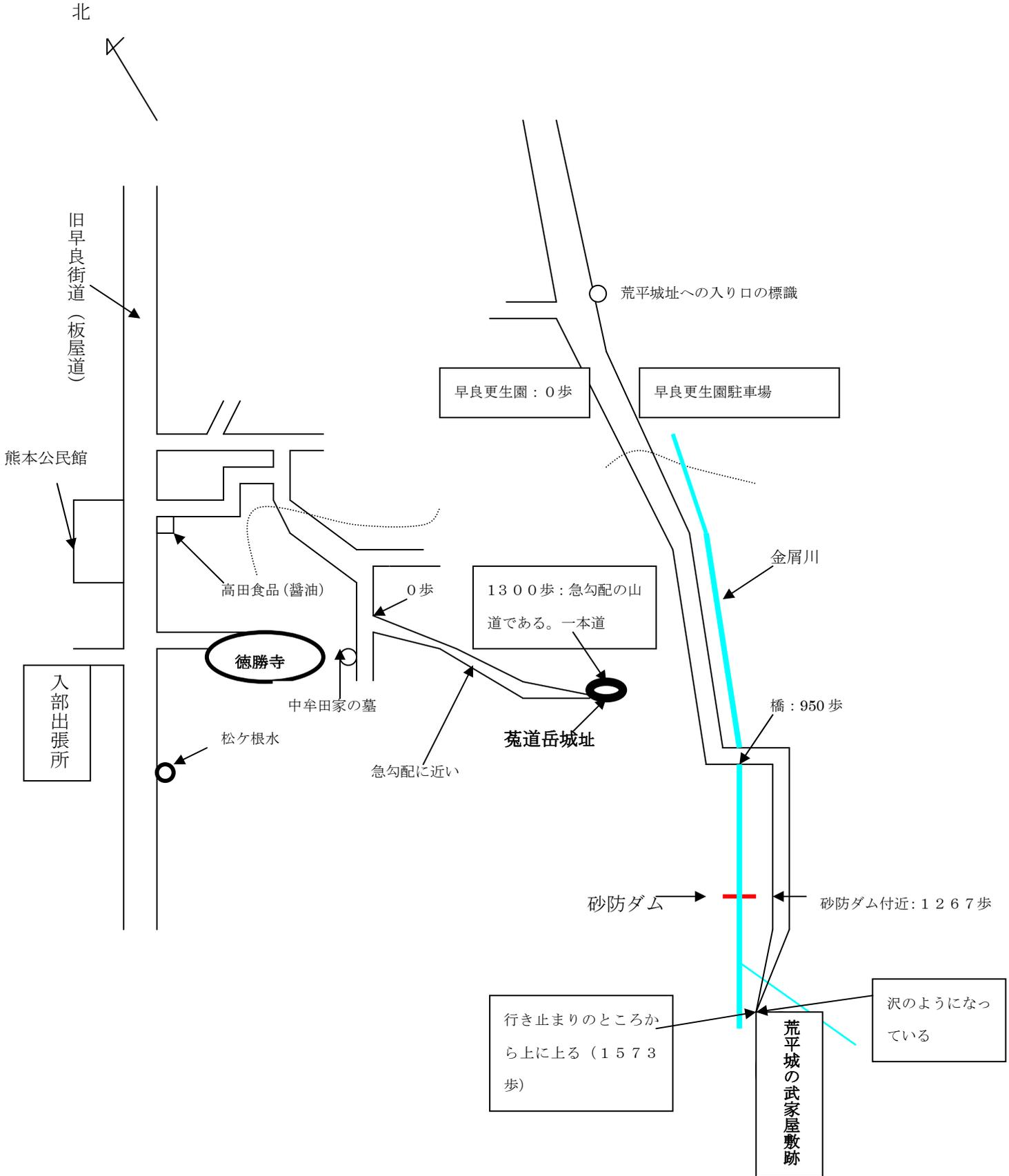
真正寺 (福岡市早良区重留 5-17-11)

茶臼城址 (福岡市早良区重留 4-14 付近の小山)



菟道岳城址（福岡市早良区東入部の入部出張所の東にある山の頂き）

荒平城の武家屋敷跡（福岡市早良区重留の早良更生園の南）



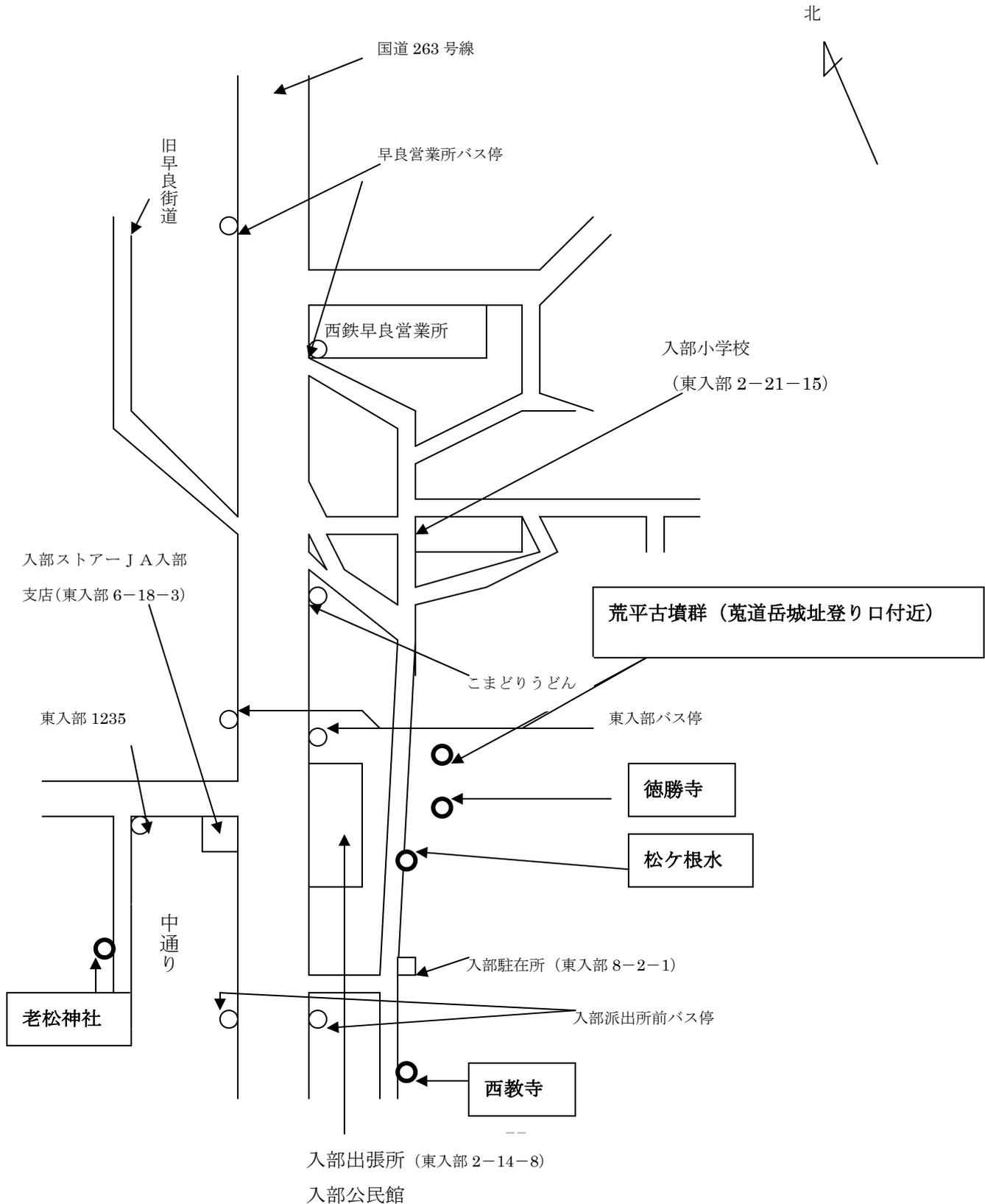
荒平古墳群（福岡市早良区東入部の入部出張所の東）

松ヶ根水（福岡市早良区東入部 2-14-8 の入部出張所の東南）

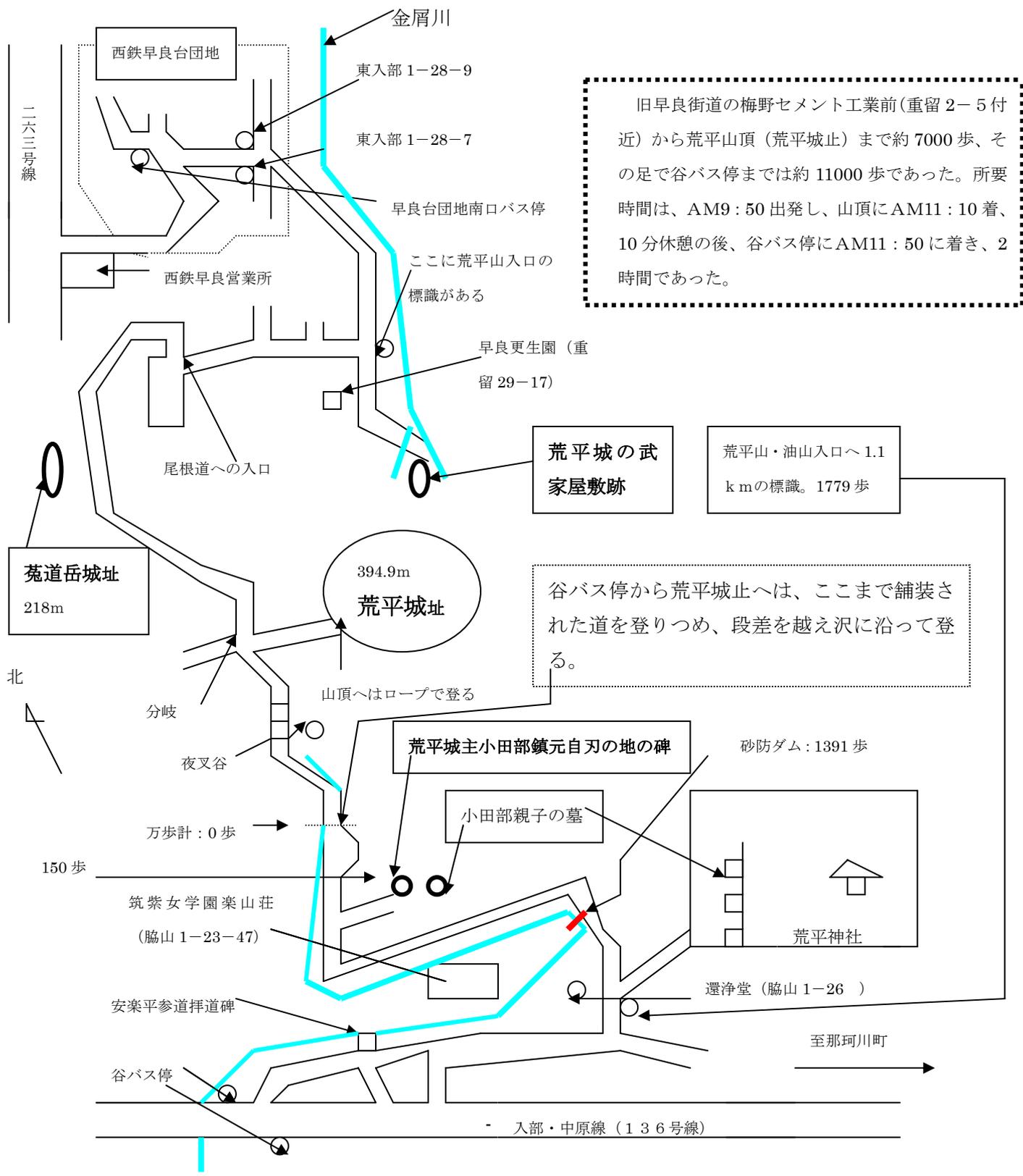
徳勝寺（福岡市早良区東入部 2-18-9）

西教寺（福岡市早良区東入部 8-11-17）

老松神社（福岡市早良区東入部 1242）



- 荒平[安楽平]城址（福岡市早良区重留の南にある荒平山の頂き）
- 菟道岳城址（福岡市早良区東入部の入部出張所の東にある山の頂き）
- 荒平城主小田部鎮元自刃の地の碑（荒平城址の南）
- 小田部親子の墓（自刃の地の西隣り：天子天ヶ森）
- 小田部親子の墓（福岡市早良区脇山 1-26 の還浄堂の北東にある荒平神社内）



旧早良街道の梅野セメント工業前(重留 2-5 付近) から荒平山頂(荒平城止) まで約 7000 歩、その足で谷バス停までは約 11000 歩であった。所要時間は、AM9:50 出発し、山頂に AM11:10 着、10 分休憩の後、谷バス停に AM11:50 に着き、2 時間であった。

荒平城の武家屋敷跡

荒平山・油山入口へ 1.1 km の標識。1779 歩

谷バス停から荒平城止へは、ここまで舗装された道を登りつめ、段差を越え沢に沿って登る。

荒平城主小田部鎮元自刃の地の碑

小田部親子の墓

砂防ダム: 1391 歩

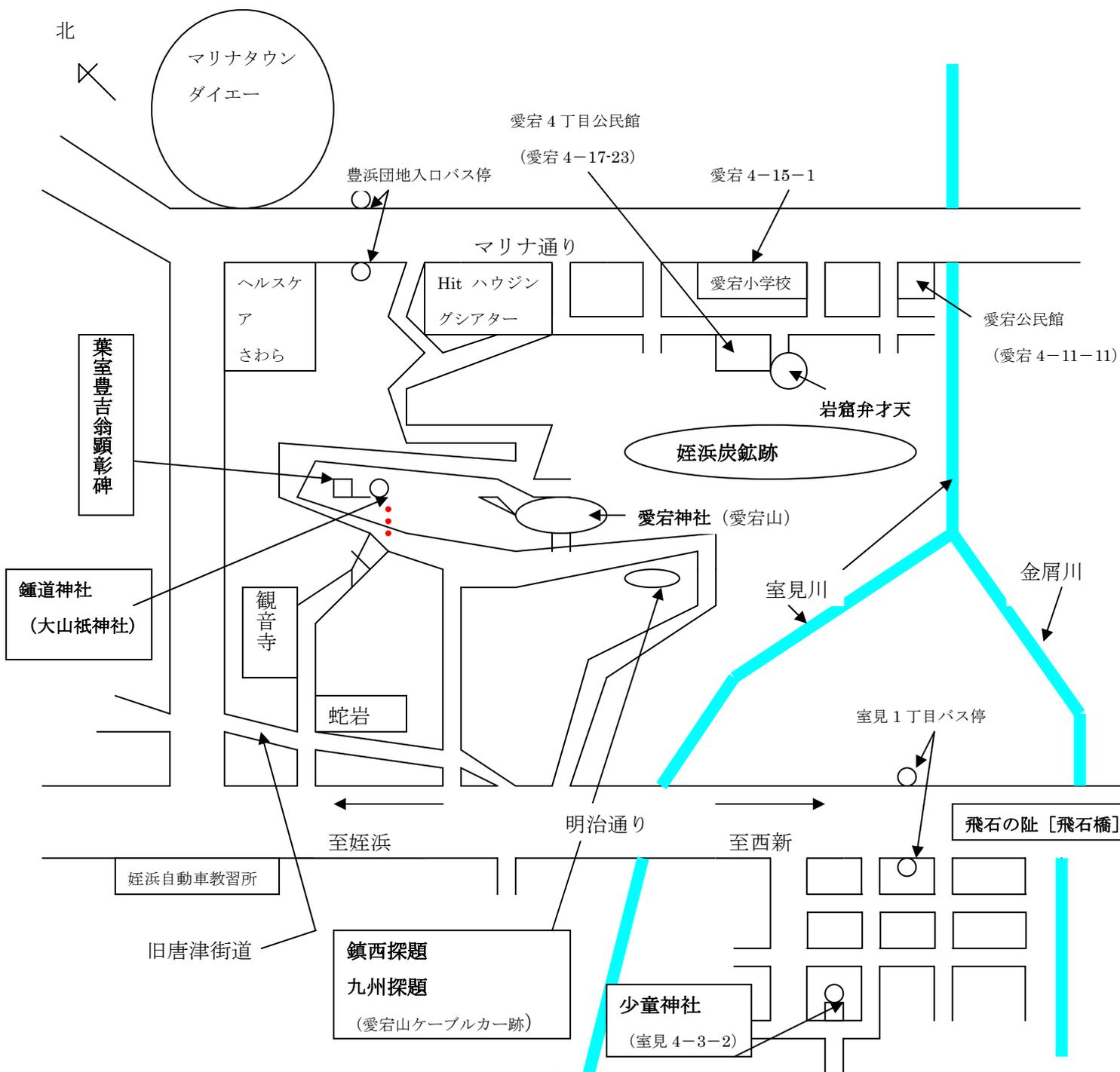


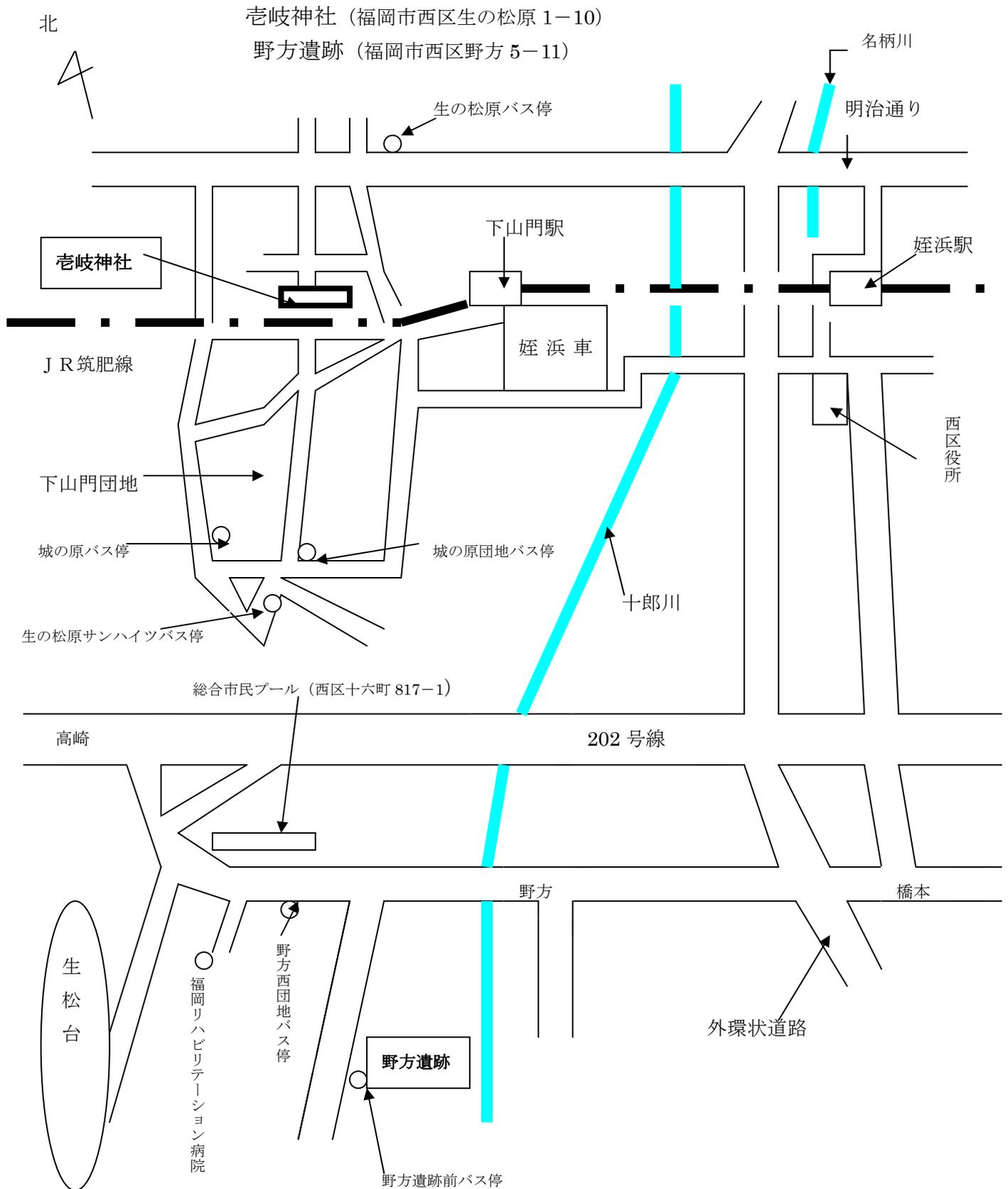
還浄堂 (脇山 1-26)

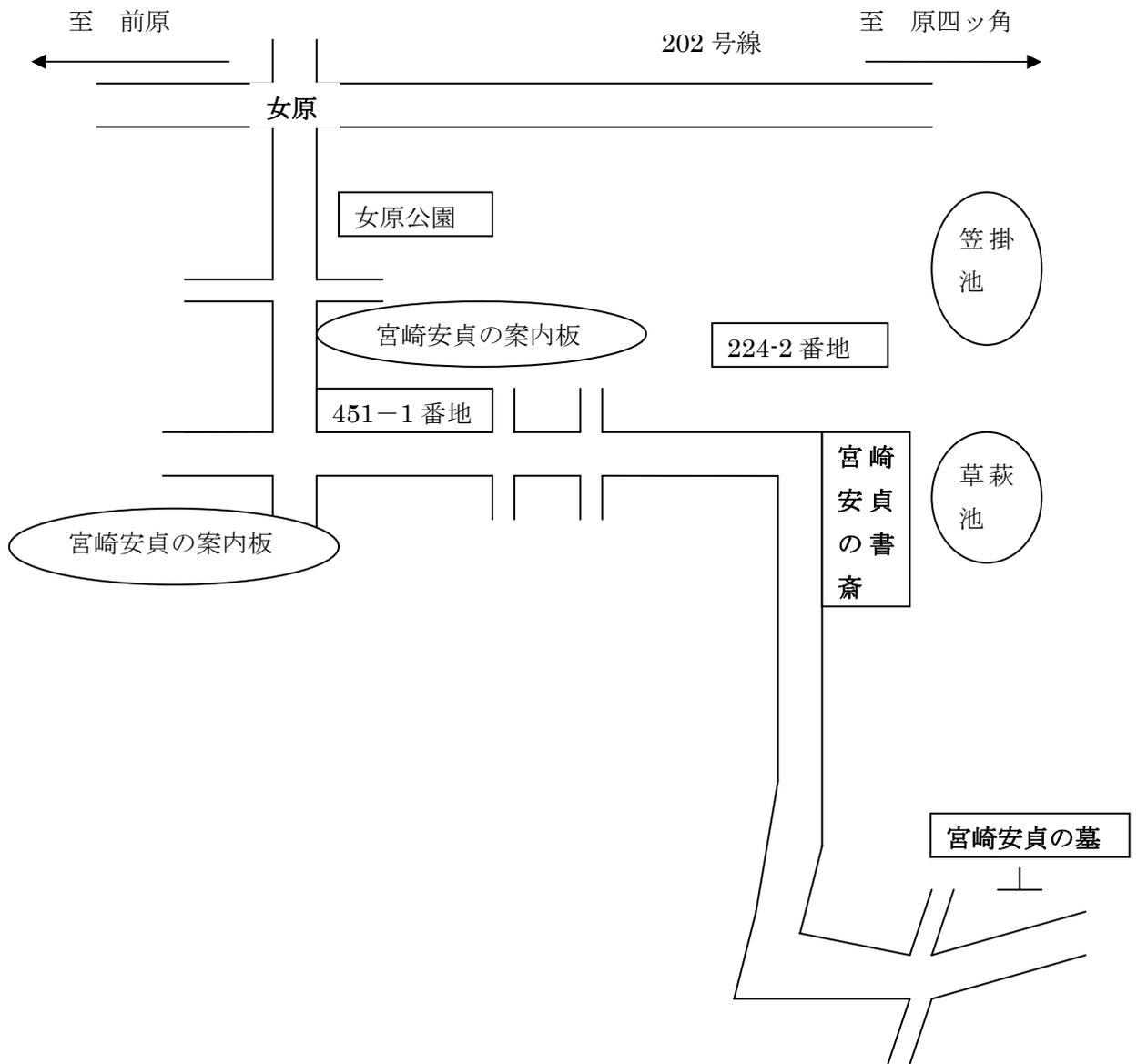
至那珂川町

入部・中原線 (136号線)

- 少童神社 [官公腰掛の石] (福岡市早良区室見 4-3-2)
- 飛石の趾 [飛石橋] (福岡市早良区金屑川に架かる飛石橋の下)
- 岩窟弁才天 (福岡市西区愛宕 4-17-23 の愛宕 4 丁目公民館の東隣り)
- 姪浜炭鉱跡 (福岡市西区愛宕 4 丁目付近で愛宕山の北)
- 愛宕神社 (福岡市西区愛宕 2-7-1)
- 鎮西探題 (福岡市西区の愛宕山のケーブルカー跡付近)
- 九州探題 (福岡市西区の愛宕山のケーブルカー跡付近)
- 葉室豊吉翁顕彰碑 (福岡市西区愛宕山の鍾道神社の裏)







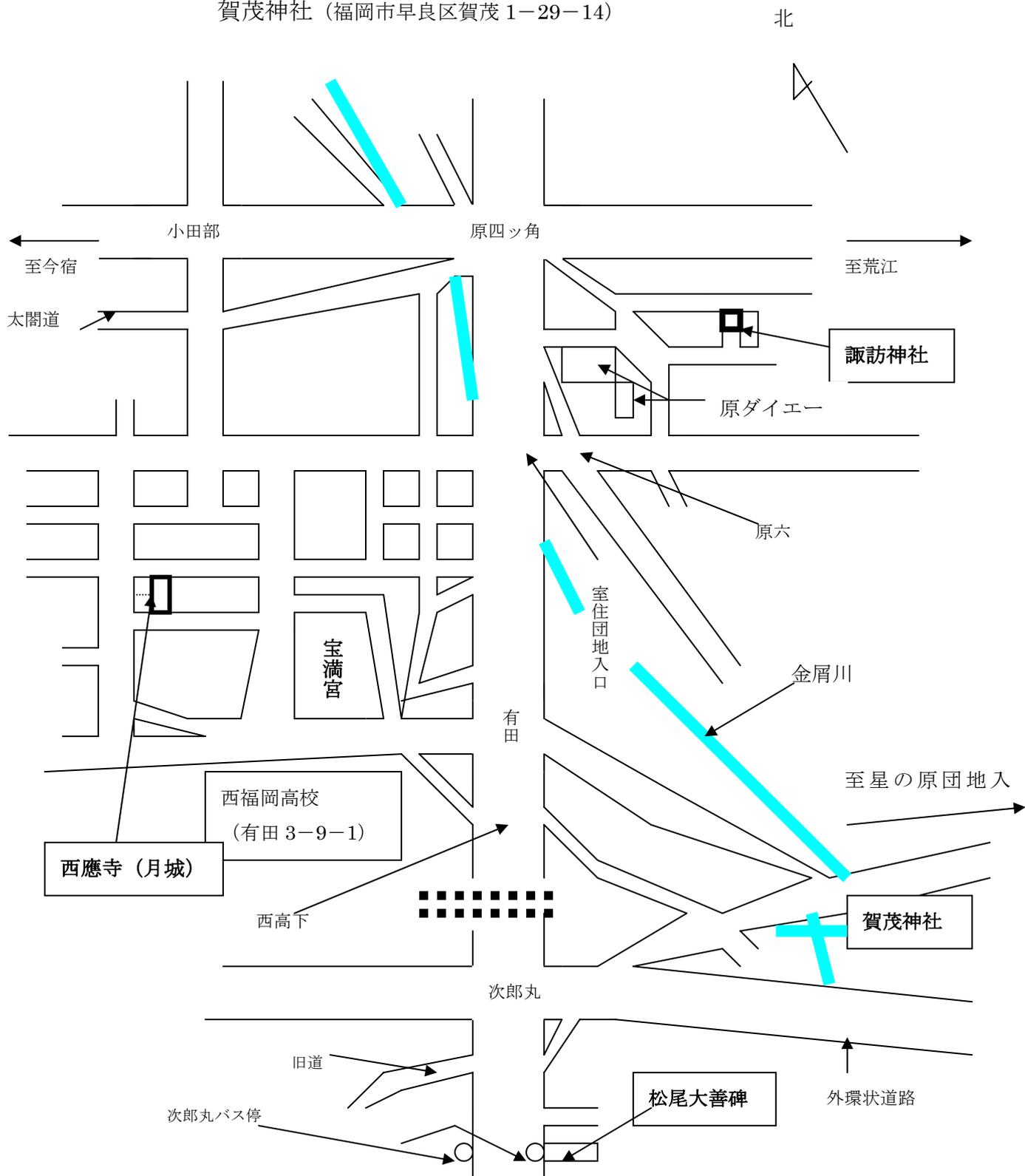
諏訪神社（福岡市早良区原 6-20-24）

西應寺[月城]（福岡市早良区有田 2-19-26）

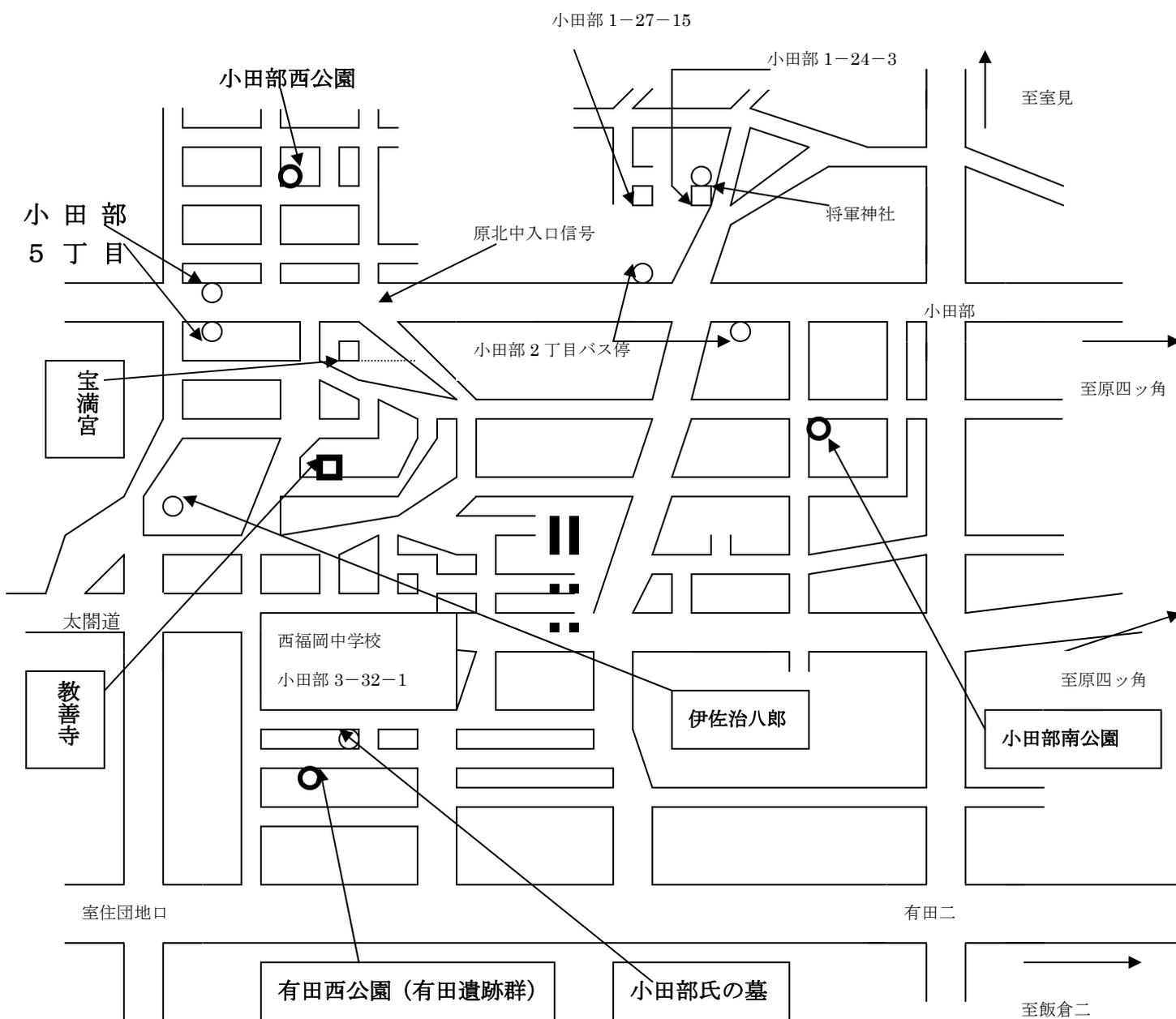
宝満宮[松尾孫三郎庄屋の碑]（福岡市早良区有田 2-20-15）

松尾大善の碑（福岡市早良区次郎丸 4-2-55 付近）

賀茂神社（福岡市早良区賀茂 1-29-14）



- 小田部西公園（福岡市早良区小田部 5-11：松浦殿・筑紫殿の説明板がある）
- 宝満宮（福岡市早良区小田部 3-11-15）
- 教善寺（福岡市早良区小田部 3-7-13）
- 小田部南公園（福岡市早良区小田部 2-2-13 の有田遺跡群）
- 伊佐治八郎宅跡（福岡市早良区小田部 4-10-1 付近）
- 有田西公園（福岡市早良区有田 1-40 の有田遺跡群）
- 小田部氏の墓（福岡市早良区有田 1-38-4 の納骨堂）



橋本八幡宮（福岡市西区橋本 2-29）

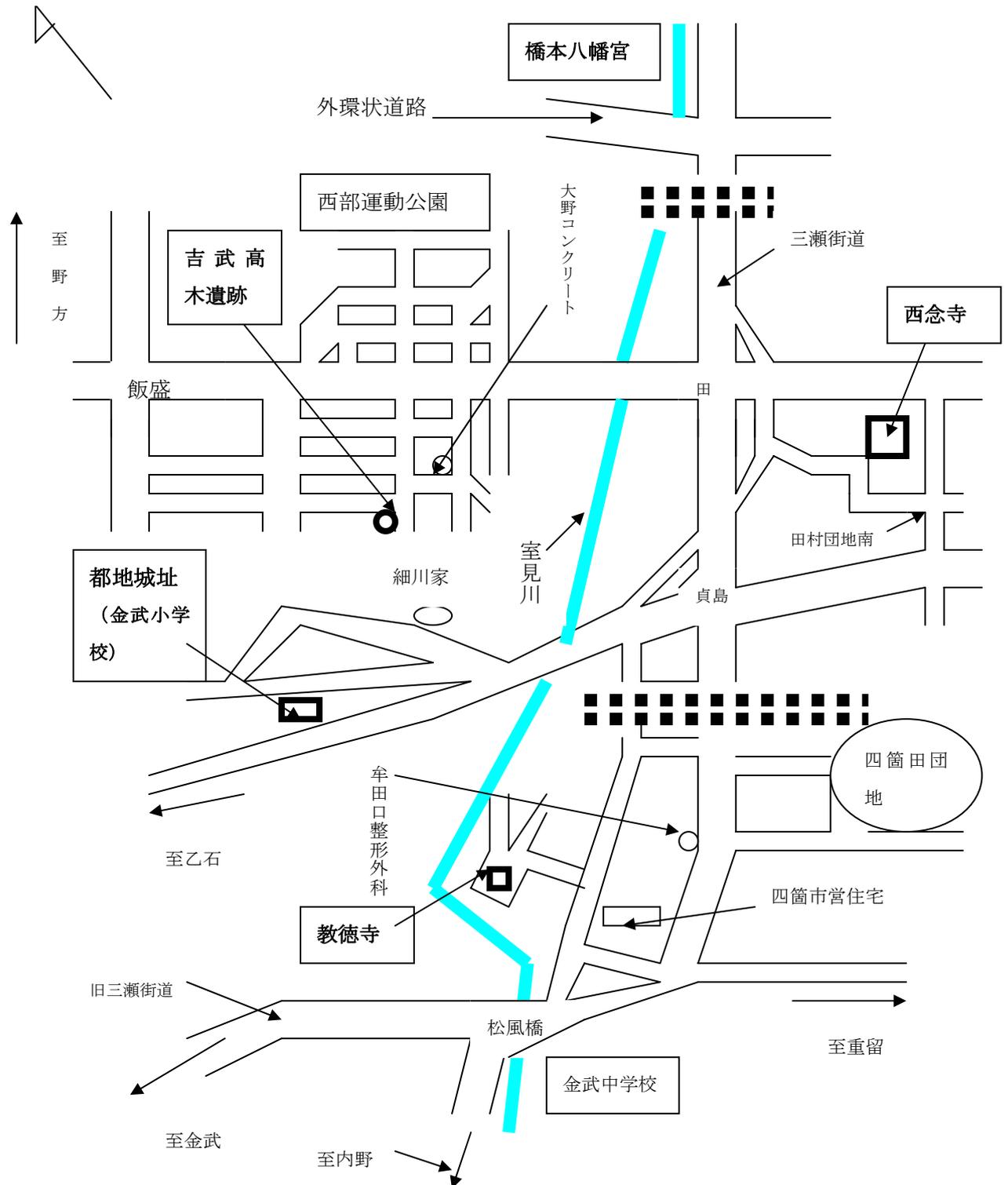
吉武高木遺跡（福岡市西区大字吉武）

都地城址（福岡市西区金武 2028-1 の金武小学校付近と細川家周辺）

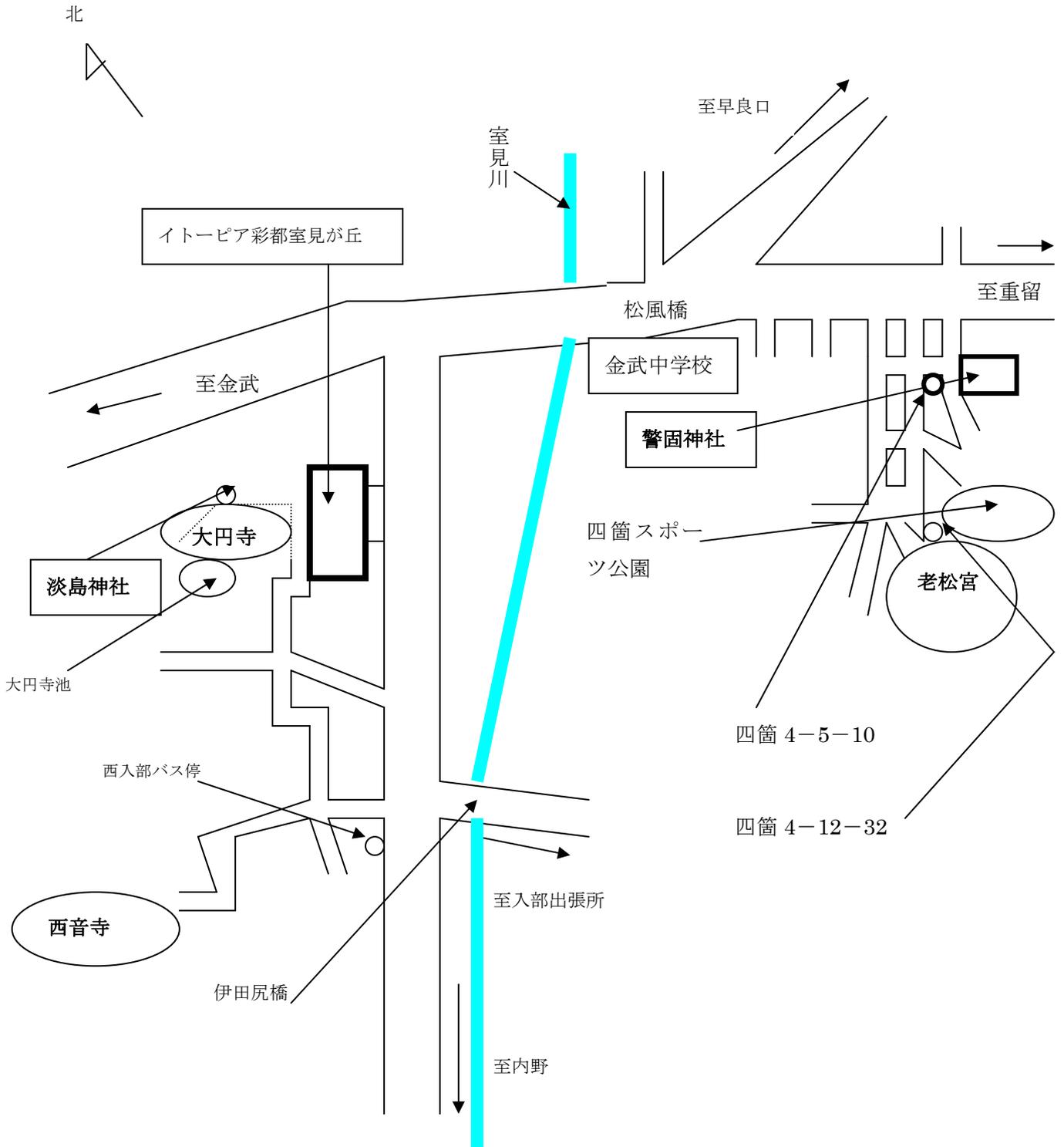
教徳寺（福岡市早良区四箇 1-13-1）

西念寺（福岡市早良区田村 3-16-2）

北



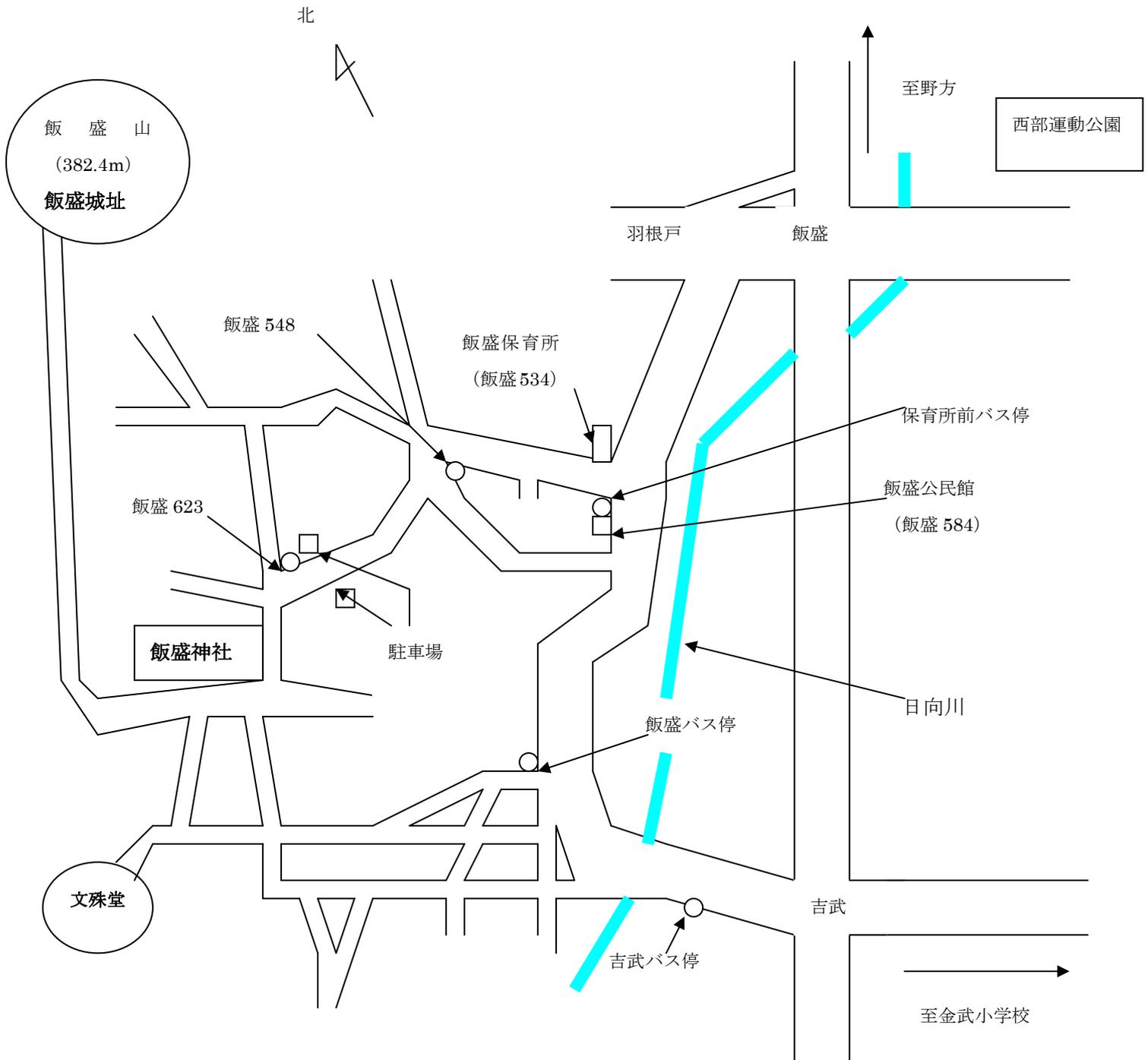
- 警固神社（福岡市早良区四箇 4-12-32 付近）
- 老松宮（福岡市早良区四箇 4-13）
- 大円寺[黒塔]（福岡市早良区西入部 5-12-10）
- 淡島神社 [保食神社]（大円寺の階段か横の道を上る）
- 西音寺（福岡市早良区西入部 4-3-6）



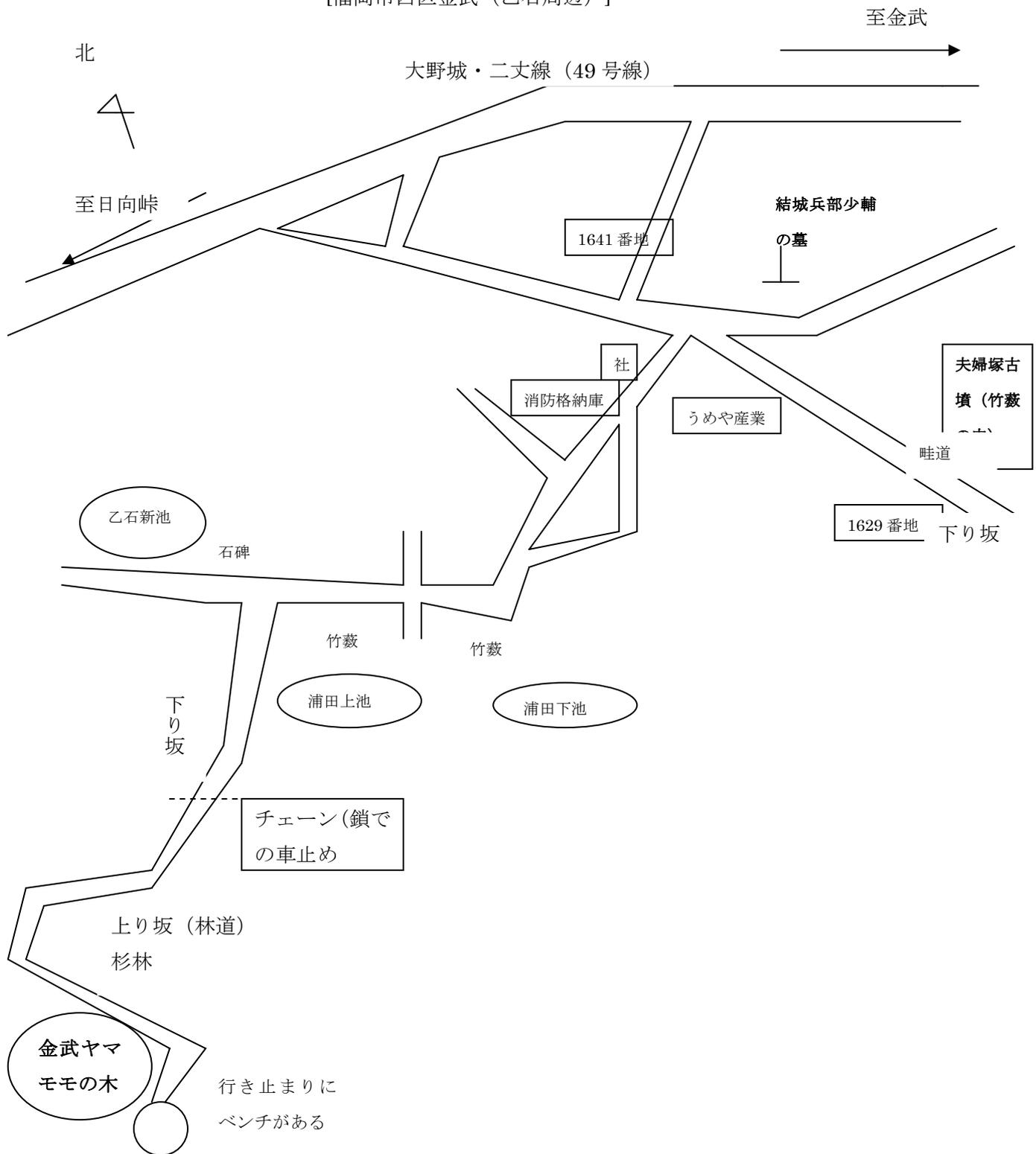
飯盛神社（福岡市西区飯盛 608）

文殊堂（福岡市西区飯盛 608 の飯盛神社から南西へ）

飯盛山城址（飯盛神社上宮）



結城兵部少輔の墓
 夫婦塚古墳
 金武ヤマモモの木
 【福岡市西区金武（乙石周辺）】



本城城址（福岡市早良区早良 6-8-8 及び 6-18-56 付近）

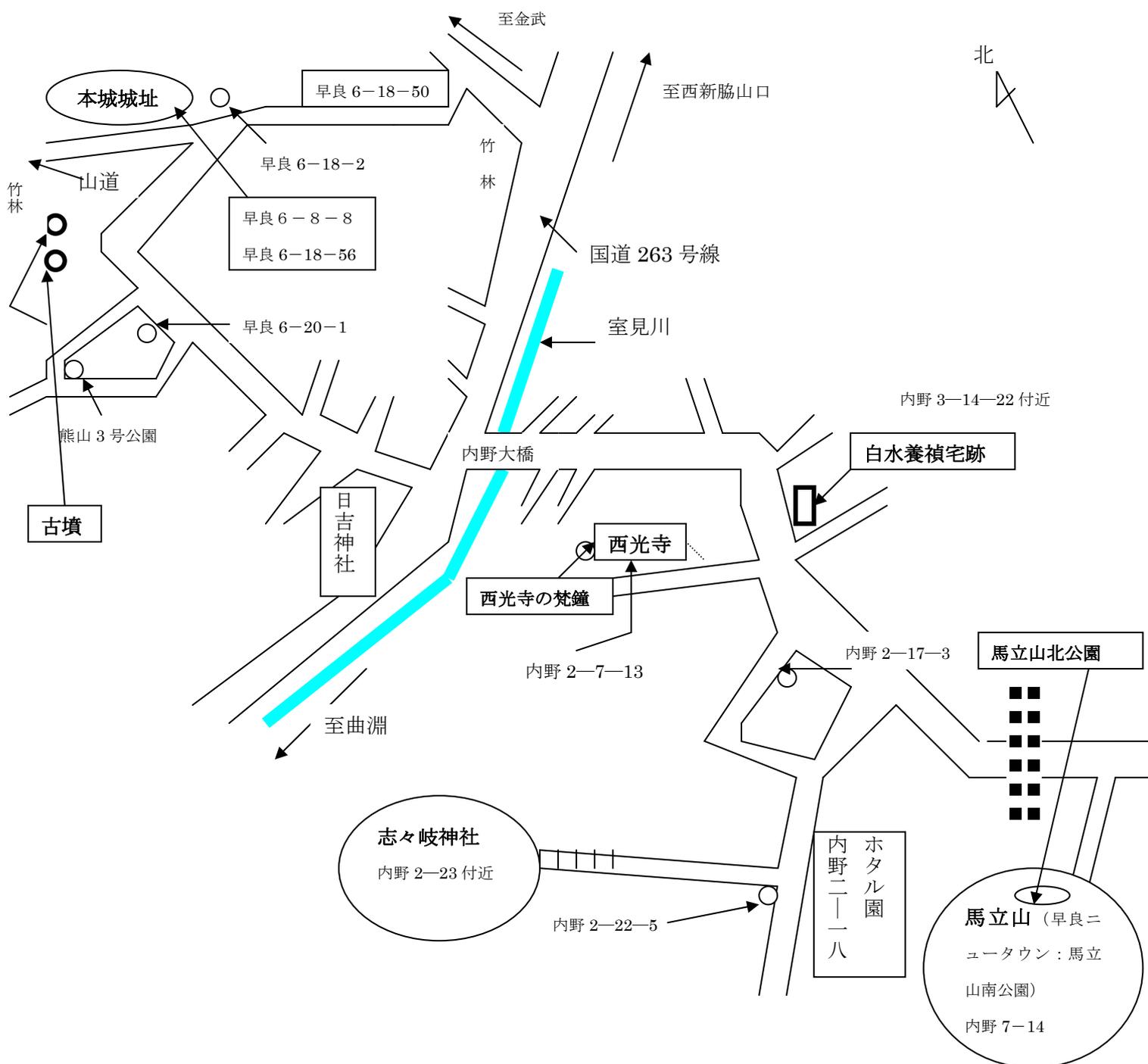
本城の古墳（福岡市早良区早良 6-8-8 付近）

西光寺（福岡市早良区内野 2-7-13）

白水養禎宅跡（福岡市早良区内野 3-14-22 付近）

志々岐神社（福岡市早良区内野 2-23 付近）

馬立山（福岡市早良区内野 7-14 早良ニュータウン）



主基斎田の跡 (福岡市早良区脇山中央公園内)

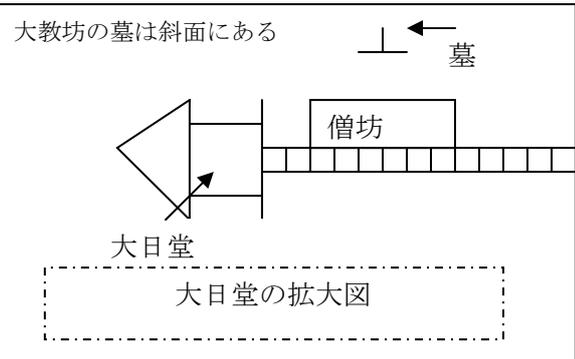
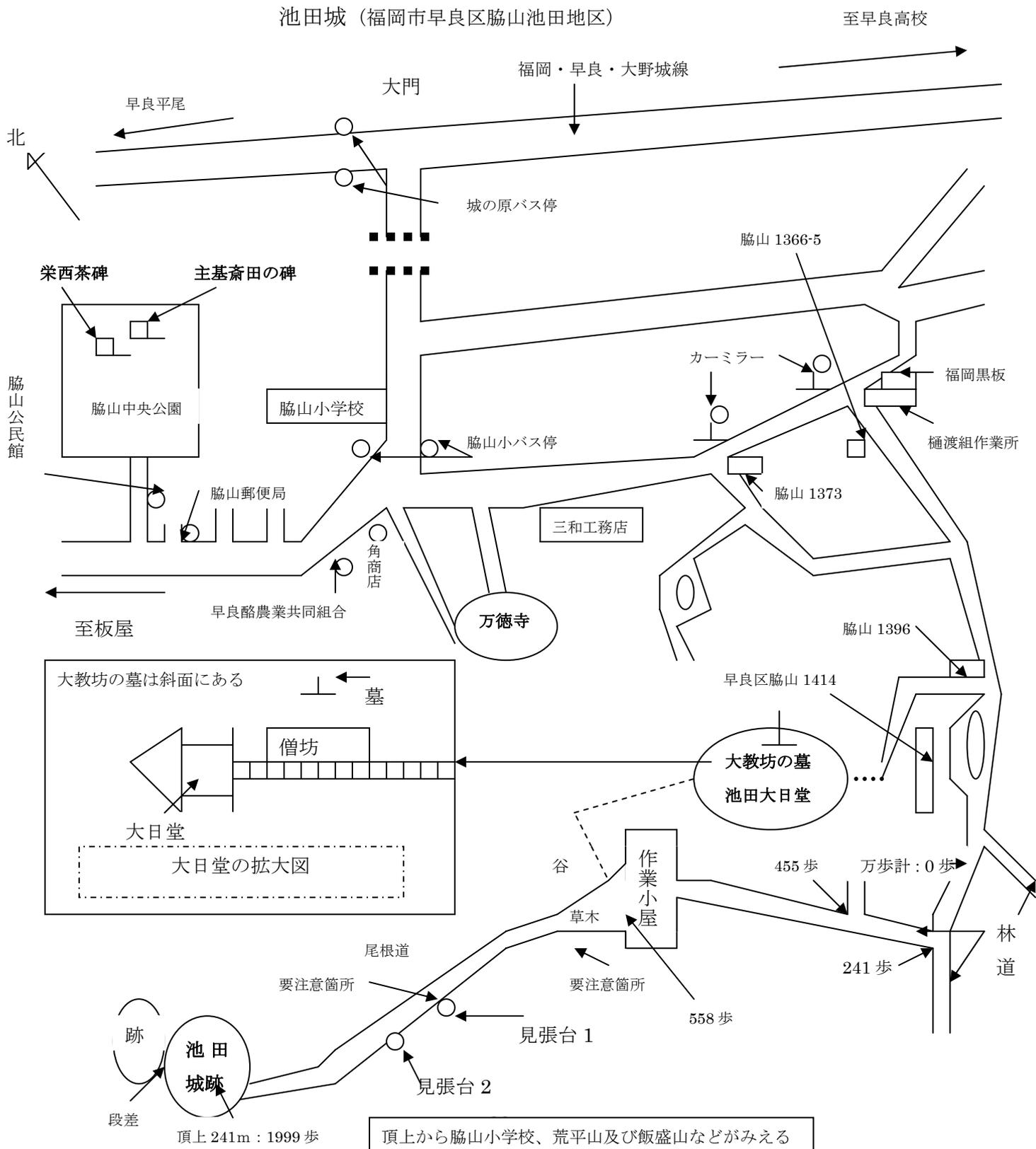
栄西茶碑 (福岡市早良区脇山中央公園内)

万徳寺 (福岡市早良区脇山 1818)

池田大日堂 (福岡市早良区脇山 1414 付近)

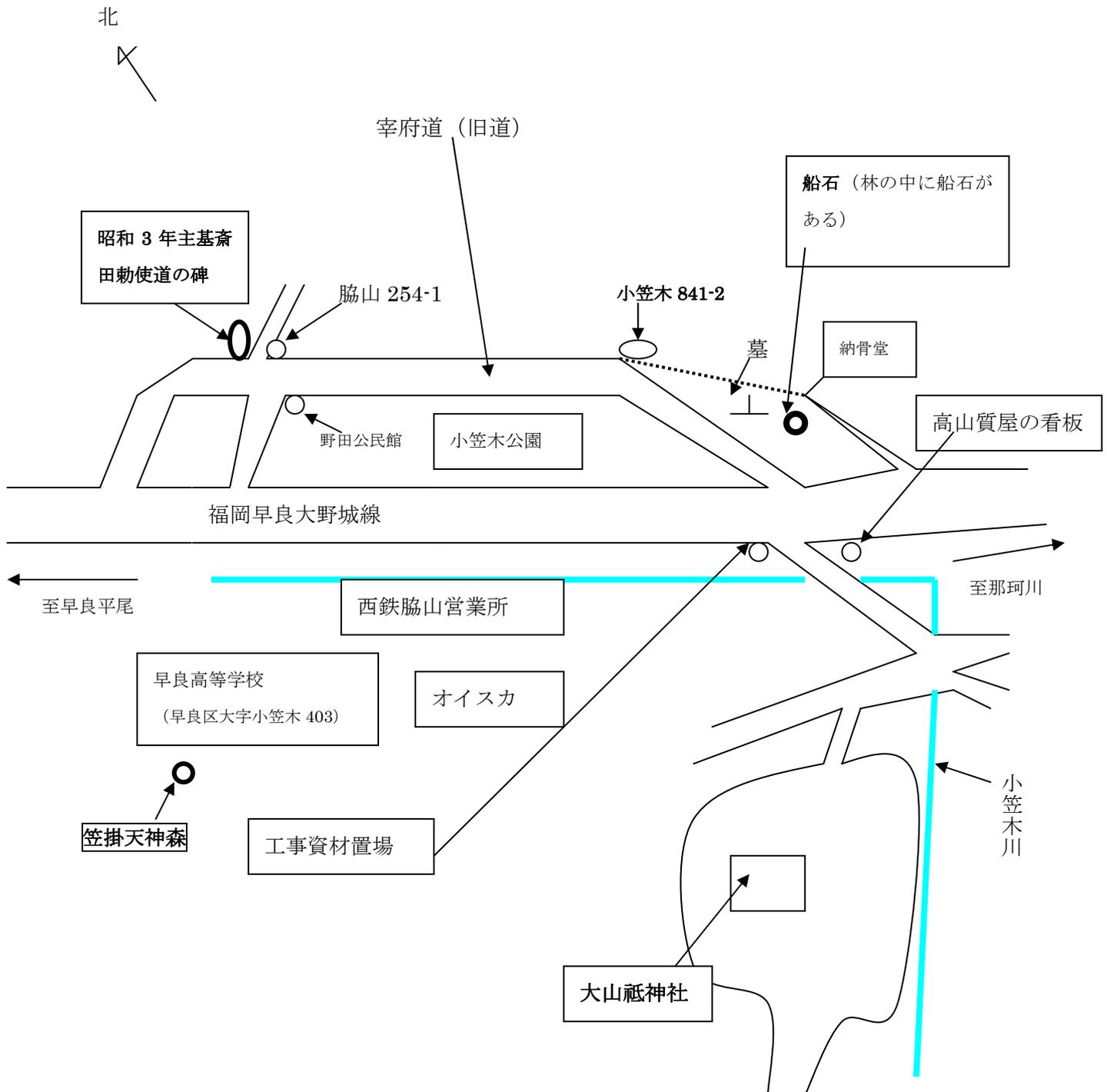
大教坊の墓 (福岡市早良区脇山 1414 付近)

池田城 (福岡市早良区脇山池田地区)



頂上から脇山小学校、荒平山及び飯盛山などがみえる

船石（福岡市早良区小笠木 841-2 の前の草むらから東へ 200m）
 主基齋田勅使道の碑（福岡市早良区脇山 254-1 の前）
 笠掛天神森（福岡市早良区大字小笠木 403 の早良高校付近）
 大山祇神社（福岡市早良区小笠木志水）



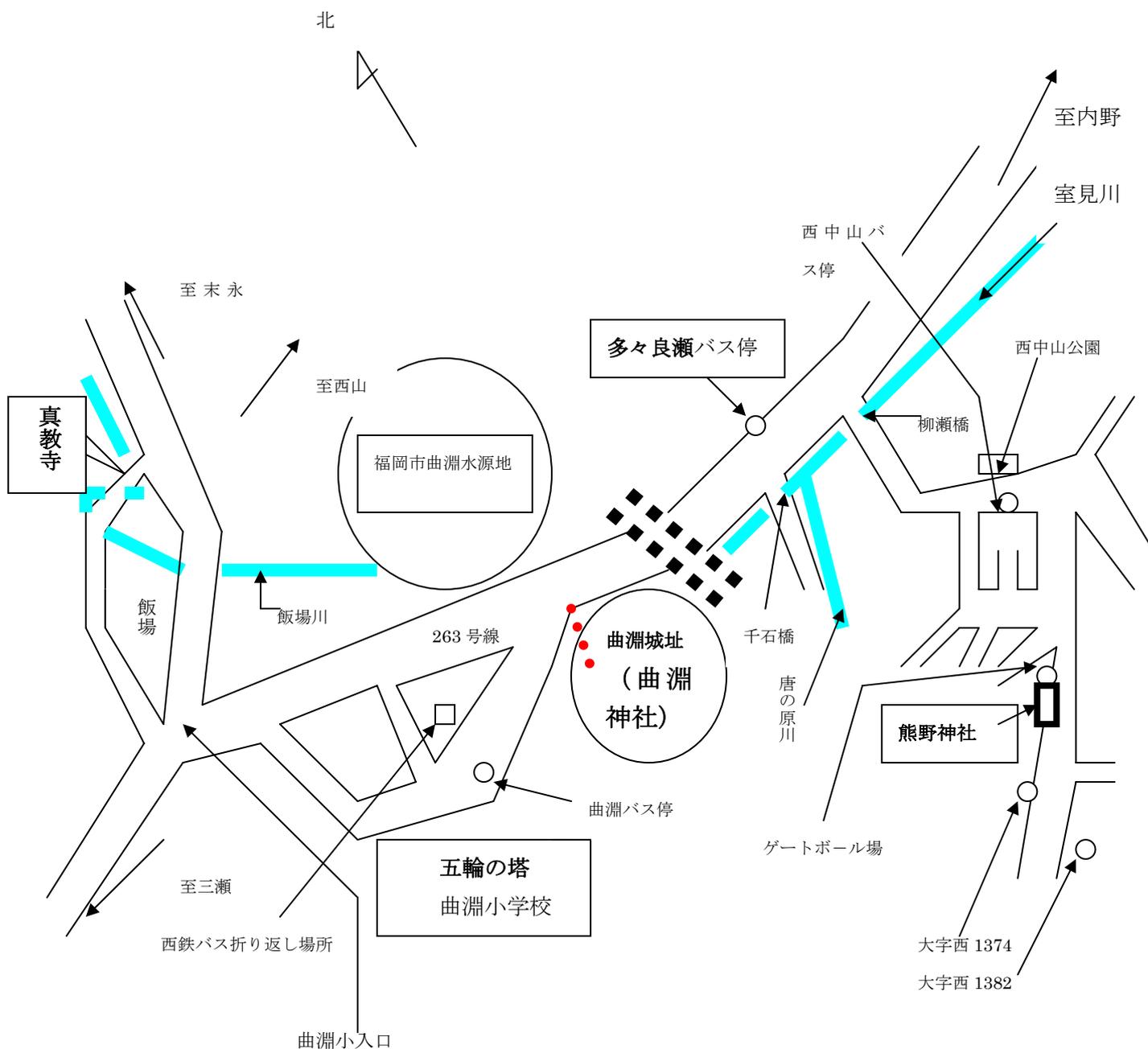
真教寺（福岡市早良区飯場 225）

五輪の塔[五重石塔]（福岡市早良区曲淵 713-1 の曲淵小学校内）

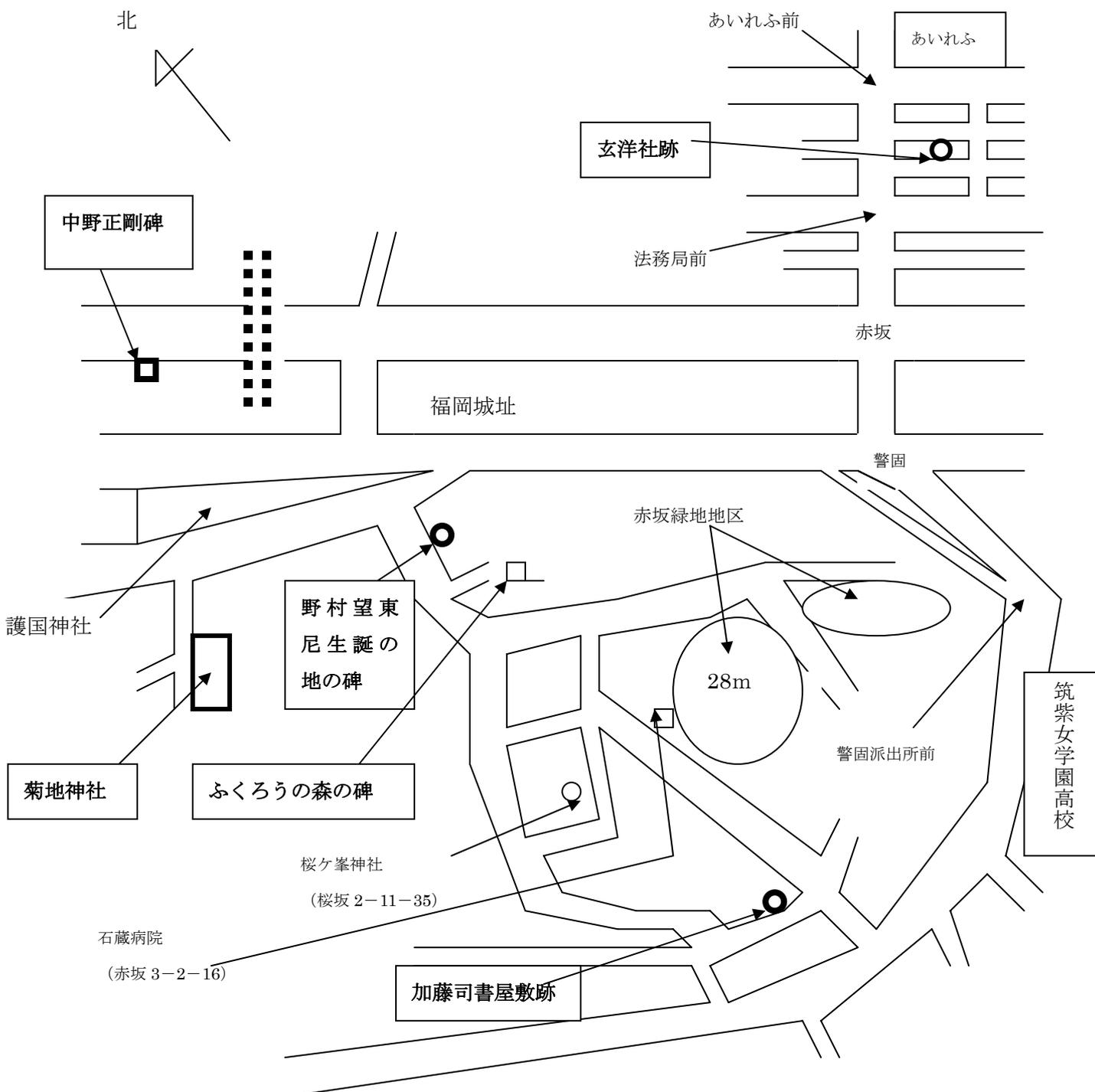
曲淵城址（福岡市早良区曲淵小学校付近）

多々良瀬（福岡市早良区大字石釜付近）

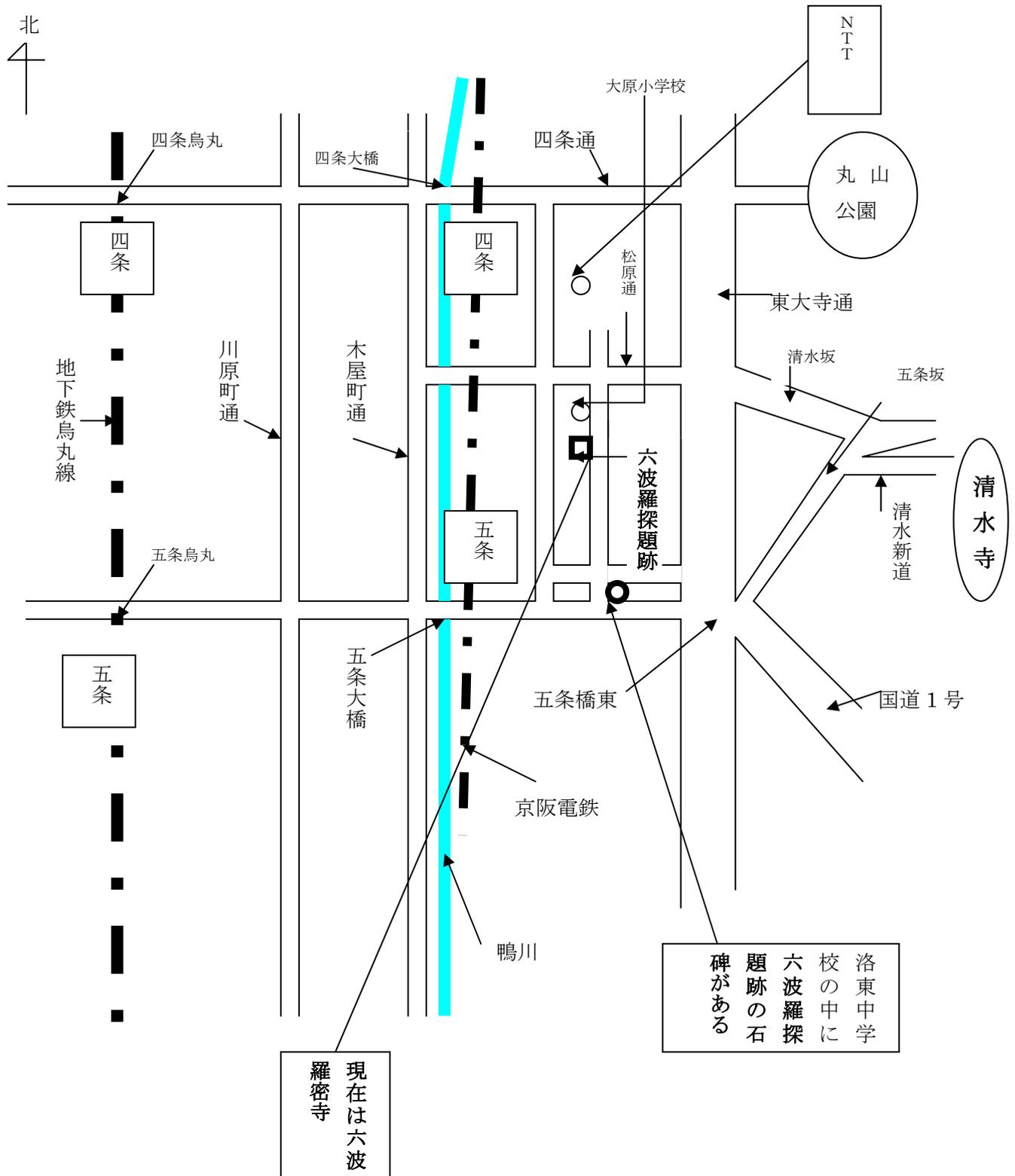
熊野神社[三社宮（中山）]（福岡市早良区大字西 1374 付近）



- 中野正剛碑（福岡市中央区今川 2-1-17 の鳥飼神社西隣り）
- 菊地神社（福岡市中央区六本松 3-16 の公園内）
- 野村望東尼生誕の地の碑（福岡市中央区赤坂 3-4-3 の前）
- ふくろうの森の碑（福岡市中央区赤坂西緑地内）
- 加藤司書屋敷跡（福岡市中央区桜坂 2-10-44 の前）
- 玄洋社跡（福岡市中央区舞鶴 2-3 のNTTドコモ玄関前）



六波羅探題跡[六波羅密寺] (京都市東山区)



おわりに

本書は、早良逍遥マップを作成するために伝承および文献などを通じて、その史蹟名勝等へ逍遥し、その確認のために人々への聞き取りをおこなった。しかしながら、その史蹟名勝等を知る人は時代を重ねるごとに少なくなり、知っている人でさえ記憶も薄らいでいるように思われる。そのようなことから、本書に掲載しているマップなども誤りがあるかもしれない。たとえ誤りがあるかもしれないマップでも、本書がその薄らいできている人々の記憶を呼び起こし、今後の伝承に貢献することにつながるものと期待するものである。

本書が地域の人々の関心を得、地域社会にさまざまな形で寄与することを念じて止まない。

油山を眺めつつ早良区重留の自宅より

[著者紹介]

内山 敏典 (うちやま としのり)

現在,九州産業大学経済学部教授

専攻: 統計学,計量経済学

担当科目: 統計学とゼミナール科目 (学部),統計学特講と演習 (大学院修士課程),計
量経済学特殊研究 (大学院博士後期課程)

経済学修士

博士 (農学)

主要著書

『アンケート調査に基づく専門教育科目の授業効果分析』(共著)九州大学出版会,1989
年.

『消費需要の計量的分析—食肉消費を事例として—』(単著)晃洋書房,1992年.

『間接税改革の国際比較』(共著)九州大学出版会,1993年.

『統計解析技法』(単著)晃洋書房,1995年.

『消費構造の変容とその統計的分析』(共著)晃洋書房,1995年.

『余暇関連財需要の計量的分析』(単著)晃洋書房,1998年.

『増補 統計解析技法』(単著)晃洋書房,1998年.

『計量分析のための統計解析技法』(単著)晃洋書房,2002年.

『看護統計テクニック—基本からパス分析まで—』(監修)医歯薬出版,2003年.

など

早良逍遥マップ記 — 歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ —

2003年12月25日 発行

著者 内山敏典

印刷所 城島印刷有限公司

非売品

URL <http://www.ut.saloon.jp/index10.htm>
